

高槻市文化財年報

平成17・18年度

高槻市教育委員会

高槻市文化財年報

平成17・18年度



史跡今城塚古墳 第9次規模確認調査 前方部南西隅の円筒埴輪列(南側から)



史跡今城塚古墳 第10次規模確認調査 石室基盤工(東側から)



史跡關鷄山古墳 第4次確認調査 土壇状遺構（南側から）



史跡關鷄山古墳 第5次確認調査 墳丘盛土状況 [5-5調査区]（南東側から）



古代体感イベント「千人で運ぶ大王の石棺」



石棺復元体験イベント「古代の匠に挑戦！」

目 次

1	平成17年度	
	Ⅰ 文化財の調査及び研究	1
	Ⅱ 文化財の保護及び保存	5
	Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用	9
2	平成18年度	
	Ⅰ 文化財の調査及び研究	15
	Ⅱ 文化財の保護及び保存	19
	Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用	21
3	概要報告	
	Ⅰ 塚原古墳群(2005-A)の調査	27
	Ⅱ 嶋上郡衙跡(2005-F)の調査	29
	Ⅲ 郡家今城遺跡(2006-A)の調査	31
	Ⅳ 津之江南遺跡(2006-A・B)の調査	34
	Ⅴ 史跡今城塚古墳第9・10次規模確認調査	36
	Ⅵ 史跡闘鶏山古墳第4・5次確認調査	39

1 平成17年度

I 文化財の調査及び研究

1.文化財の調査

□文化財の掘り起こし調査

しろあと歴史館の展示資料の充実及び本市の歴史・文化の発掘のため、文化財の掘り起こし調査を26件実施し、資料化を図った。(1-Ⅱ-7.文化財の寄贈・寄託 参照)

・特別展開催に伴う掘り起こし調査

開館3周年記念特別展「永井家十三代と高槻藩」の開催にあたり、藩主永井家や藩を支えた旧藩士家に関する資料調査を行い、展示の充実と研究の進展に努めた。

調査先：永井家の菩提寺・京都悲田院、野見神社をはじめ、郡家、藪家、中條家、猪瀬家など旧藩士家

□古文書の整理

高槻市史編纂時から所蔵する古文書及び特別展開催に際して収集した古文書について、目録作成、写真撮影・データ入力に努めた。

□永井神社例大祭（永井祭）の調査

高槻藩永井家の祖である永井直清を祀る永井神社（野見町）で、毎年行われている例祭。当日は、野見神社宮司のもと、旧藩士の会「永井会」（会長：奥野喜久氏）が参列し、祭礼が執り行われる。例大祭終了後、高槻市居合道連盟による奉納武道大会も開催される。

今回の調査は、写真撮影による記録保存を行った。

実施日：4月24日



個人住宅	造成・擁壁・分譲住宅	共同住宅等建物	上・下水道水路	電気・ガス等工事	駐車場・倉庫等	史跡管理	試掘・確認調査	その他	合計
13	5	12	6 (1)	3 (1)	1 (1)	4 (4)	2 (2)	3 (2)	49 (10)

表1 届出地別調査及び立会件数

下段()内は史跡現状変更許可申請に伴うもの

遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計
嶋上郡衙跡	4	4	8	津之江南遺跡	2		2	安満遺跡	4	1	5
塚原古墳群	1		1	大蔵司遺跡		1	1	安満北遺跡	1		1
闘鶏山古墳	1		1	宮之川原遺跡		2	2	鶴殿遺跡	1		1
富田遺跡	1		1	神峯山寺		1	1	大塚西遺跡	1		1
今城塚古墳	3	1	4	塚脇古墳群		1	1	北園遺跡	1		1
前塚古墳	1		1	天神山遺跡	3	3	6	ミクリ遺跡	1		1
郡家今城遺跡	1		1	昼神車塚古墳		2	2	合計	30	19	49
郡家本町遺跡	2		2	古曾部・芝谷遺跡		1	1				
宮田遺跡	1		1	高槻城跡	1	2	3				

表2 遺跡別調査及び立会件数

No	遺跡名(地区)	所在地	届出者	用途	面積(m ²)	種別
1	嶋上郡衙跡(2005-A)	清福寺町919-5	個人	個人住宅建設	55.74	立会
2	嶋上郡衙跡(2005-B)	川西町一丁目12-33	個人	個人住宅建設	49.36	立会
3	嶋上郡衙跡(2005-C)	郡家本町地内	高槻市	下水道建設	766.7	調査
4	嶋上郡衙跡(2005-1)	郡家新町395-8	個人	個人住宅建設	97.4	立会
5	史跡嶋上郡衙跡(2005-D)	川西町一丁目1000	高槻市教育委員会	防災備蓄倉庫	26.2	調査
6	嶋上郡衙跡(2005-2)	郡家新町163-28	個人	個人住宅建設	74.81	立会
7	史跡嶋上郡衙跡(2005-E)	郡家新町295	郡家本町実行組合	水路補修	11.25	調査
8	嶋上郡衙跡(2005-F)	川西町一丁目995-9	邦星アセット(株)	店舗建設	3139.26	調査
9	塚原古墳群(2005-A)	塚原二丁目62-1	総合住販	宅地造成	839	調査
10	史跡鬮鷄山古墳(2005-1)	氷室町六丁目1-3ほか	高槻市教育委員会	確認調査	400	調査
11	富田遺跡(2005-A)	富田町四丁目488-1,5,10	高槻ライフケア協会	介護施設建設	393.98	調査
12	史跡今城塚古墳(2005-A)	郡家新町671	高槻市教育委員会	解説板設置	0.4	調査
13	史跡今城塚古墳(2005-1)	郡家新町2他	高槻市教育委員会	規模確認調査	600	調査
14	史跡今城塚古墳(2005-B)	郡家新町13-1	高槻市教育委員会	イベント仮設テント	622	調査
15	史跡今城塚古墳(2005-C)	郡家新町16	高槻市教育委員会	整備工事	4500	調査
16	今城塚古墳(2005-5)	郡家新町地内	高槻市	下水道建設	38.5	調査
17	前塚古墳(2005-A)	岡本町地内	高槻市	下水道建設	203.7	調査
18	郡家今城遺跡(2005-A)	今城町17-3の一部	個人	兼用住宅	197.47	調査
19	郡家本町遺跡(2005-1)	郡家本町727-1・721-2の一部	個人	個人住宅建設	432.79	調査
20	郡家本町遺跡(2005-A)	郡家本町地内	高槻市	下水道建設	734.6	調査
21	宮田遺跡(2005-A)	宮田町三丁目91の一部・92の一部	個人	共同住宅	1859.53	調査
22	津之江南遺跡(2005-A)	津之江北町地内	高槻市	下水道建設	106.8	調査
23	大蔵司遺跡(2005-A)	大蔵司三丁目297-10・300-9	個人	事務所	72.58	立会
24	宮之川原遺跡(2005-A)	宮之川原五丁目13-11	個人	個人住宅建設	90.63	立会
25	宮之川原遺跡(2005-B)	宮之川原元町872-1	個人	共同住宅	460.2	立会
26	神峰山寺(2005-A)	大字原3301-1	NTTドコモ	無線基地設置	7	立会
27	塚脇古墳群(2005-A)	塚脇一丁目2539	個人	分譲住宅	972	立会
28	天神山遺跡(2005-A)	天神町二丁目10-14	個人	個人住宅建設	340.06	立会
29	天神山遺跡(2005-B)	天神町二丁目931-3の一部	個人	個人住宅建設	165.29	立会
30	天神山遺跡(2005-C)	天神町二丁目931-3	大江住宅	分譲住宅	132.32	立会
31	天神山遺跡(2005-D)	天神町二丁目932-12	個人	共同住宅	450.87	調査
32	天神山遺跡(2005-1)	天神町二丁目932-57・70の一部他	個人	個人住宅建設・車庫	340.47	調査
33	天神山遺跡(2005-2)	天神町二丁目932-57・70の各一部	個人	個人住宅建設・車庫	333.66	調査
34	昼神車塚古墳(2005-A)	天神町一丁目120-2の一部	三和住研	分譲住宅	106.5	立会
35	昼神車塚古墳(2005-B)	天神町一丁目120-2の一部	三和住研	分譲住宅	107.8	立会
36	古曾部・芝谷遺跡(2005-A)	宮が谷町143-21,144-6	類設計室	学習塾建設	435.05	立会
37	高槻城跡(2005-A)	城内町1001-5	個人	個人住宅建設	82.4	立会
38	高槻城跡(2005-B)	出丸町964-38	個人	個人住宅建設	99.06	立会
39	高槻城跡(2005-C)	野見町444・454・1195-1の一部他	個人	共同住宅	649.13	調査
40	史跡安満遺跡(2005-A)	八丁畷町230-1他	高槻市教育委員会	フェンス設置	L=129.3m	調査
41	安満遺跡(2005-B)	八丁畷町279-1他	関西電力	電気設備	30.96	調査
42	史跡安満遺跡(2005-C)	八丁畷町319	高槻市教育委員会	仮設便所	1.35	調査
43	史跡安満遺跡(2005-D)	八丁畷町414-3	関西電力	鉄塔敷地補修	155	調査
44	安満遺跡(2005-E)	八丁畷町279-1他	関西電力	電気設備工事	9.68	立会
45	安満北遺跡(2005-1)	安満中の町21-17	個人	共同住宅	898.91	調査
46	鶴殿遺跡(2005-A)	鶴殿地先	淀川河川事務所長	土砂掘削	15,000	立会
47	大塚西遺跡(2005-A)	大塚町四丁目50-1	大阪府教育委員会	エレベーター設置	50	府調査
48	北園遺跡(2005-A)	北園町300-1・2	高槻市	子育て支援センター	1628.68	調査
49	ミクリ遺跡(2005-A)	西町地内	大阪府	道路建設	900	府調査

表3 平成17年度調査地一覧

期 間	担当者	調 査 内 容
17.4.21~26	西 村	地表下0.8mで黄褐色砂層の地山を確認。遺構・遺物無し。
17.9.12	西 村	地表下0.8mで灰褐色砂質シルトの地山を確認。遺構・遺物無し。
17.10.1~18.3.31	鐘ヶ江	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
17.10.24	橋 本	※盛土内の工事。遺構・遺物無し。
18.1.10	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工。
18.1.19	橋 本	※盛土内の工事。遺構・遺物無し。
18.2.6	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工。
18.2.13~5.31	橋 本	弥生時代の堅穴住居・奈良時代の掘立柱建物・井戸跡等を検出する。本書掲載。
17.9.20~11.9	西 村	横穴式石室3基調査。本書掲載。
17.10.17~18.3.20	高 橋	史跡現状変更 前方部の規模・形状・盛土状況の確認。土壇状遺構の規模形状把握(第4次)。本書掲載。
17.10.20	橋 本	地表下0.4mで暗褐色礫土の地山を確認。遺構・遺物無し。
17.5.2	宮 崎	史跡現状変更。申請どおり実施を確認。
17.6.27~2.22	宮 崎	史跡現状変更。本書掲載。
17.8.22~28	宮 崎	史跡現状変更。申請どおり実施を確認。
17.11.17~18.3.30	鐘ヶ江	史跡現状変更。申請どおり実施を確認。
18.2.2~3.31	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.3.8~3.31	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
17.5.25~31	西 村	地表下0.9mで灰褐色シルトの地山を確認。須恵器・土師器出土。
17.9.21~22	高 橋	※地表下1.4mで淡灰白色砂の地山を確認。土師器・須恵器出土。
17.10.1~3.31	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
17.10.27	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
17.6.23~3.31	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
17.10.18	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
17.4.7~19	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
17.9.16	西 村	地表下0.9mで黄褐色シルトの地山を確認。遺構・遺物無し。
17.11.24	橋 本	地山岩盤直上。遺構・遺物無し。
17.7.14~10.21	西 村	塚脇F3号墳は古墳でないことが判明。
17.5.11~24	西 村	地表下0.2~0.4mで明黄褐色砂質シルトの地山を確認。遺構・遺物無し。
17.6.7~14	西 村	地表下0.1mで灰褐色砂質土の地山を確認。遺構・遺物無し。
17.9.13	西 村	地表下0.2mで灰白色砂質シルトの地山を確認。遺構・遺物無し。
17.10.13	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
17.11.14	橋 本	※地表下0.1mで黄褐色粘土の地山確認。遺構・遺物なし。
17.12.19	橋 本	※地表下0.2mで黄褐色粘土の地山確認。遺構・遺物なし。
17.6.27	西 村	地表下0.9mでにぶい橙色礫砂層の地山を確認。遺構・遺物無し。
17.6.27	西 村	地表下0.5mでにぶい黄褐色砂層の地山を確認。遺構・遺物無し。
17.8.26	高 橋	遺構面に達せず。
17.4.27~28	西 村	盛土内の掘削。
17.9.8	西 村	地表下0.8mで灰褐色砂質シルトの地山を確認。遺構・遺物無し。
17.11.7	橋 本	地表下約1mで青灰色粘土(堀の上面)を確認する。
17.4.22	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工。
17.9.5~18.1.19	高 橋	遺構面に達せず。
18.2.21	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工。
18.3.6	鐘ヶ江	史跡現状変更。盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.3.27	西 村	盛土内の掘削。遺構・遺物発見されず。
17.8.4~22	西 村	※地表下0.8mで明褐色~黄橙色粘質土の地山を確認。柱穴検出。須恵器・土師器・柱材出土。
18.1.4~3.10	橋 本	河床堆積層を確認。遺構・遺物無し。
	大阪府	大阪府教育委員会が調査。
17.11.29	橋 本	攪乱・盛土層を確認。遺構・遺物無し。
	大阪府	大阪府教育委員会が調査。

遺跡別調査年月日別に配列 ※は高槻市文化財調査概要33「嶋上遺跡群30」に掲載

2.埋蔵文化財の調査

□平成17年度の調査（表1～3）

平成17年度の土木工事に伴う埋蔵文化財調査の届出件数は繰越分を含めて55件で、このうち24遺跡について、発掘調査30件（現状変更10件を含む）、工事立会19件をそれぞれ実施した（表3参照 大阪府調査分を含む）。

調査件数が多いのは天神山遺跡（発掘調査3件・工事立会3件）、嶋上郡衙跡（発掘調査2件・工事立会4件）である。主に個人住宅の建設に伴うものであるが、天神山遺跡では分譲住宅・共同住宅の建設も含まれている。嶋上郡衙跡では史跡指定地南側に隣接した地区で店舗建設工事が計画され発掘調査を実施し、弥生時代後期の竪穴式住居や掘立柱建物などの奈良時代遺構が拓がっているのが確認された。また、嶋上郡衙跡から郡家本町遺跡にかけての下水道築造工事に伴う発掘調査も実施しているが、明確な遺構は検出されていない。塚原古墳群では宅地造

成工事に伴い、後期古墳3基を発掘調査した。高槻城跡においても外堀を中心に個人住宅の建設に伴う工事立会が増加傾向にあり、外堀の確認などに努めている。また、前年度に発見された北園遺跡・ミクリ遺跡についても公共工事に先立ち発掘調査を実施した。

なお、史跡今城塚古墳、史跡闘鶏山古墳では継続して規模確認調査を実施した。

3.文化財資料等の刊行

- ・「高槻の史跡」
- ・「開館3周年記念特別展図録 永井家十三代と高槻藩」
- ・「史跡・今城塚古墳―平成16年度第8次規模確認調査―」
- ・「高槻市文化財調査概要33 嶋上遺跡群30」
- ・「高槻市文化財年報 平成15・16年度」

Ⅱ 文化財の保護及び保存

1.文化財保護審議会

・第1回：5月11日

- ①民俗文化財の調査について
- ②市指定文化財の指定について（答申）
- ③その他

・第2回：11月15日

- ①史跡今城塚古墳啓発イベントについて
- ②史跡今城塚古墳第2次整備工事について
- ③平成17年度しろあと歴史館秋季特別展について
- ④市指定無形民俗文化財の指定について（諮問）
 - ・磐手杜神社 神輿渡御神事
 - ・八阪神社 春祭歩射神事
- ⑤その他

・第3回：平成18年2月10日

- ①史跡今城塚古墳第9次規模確認調査及び第2次整備工事について
- ②史跡鬮鷄山古墳第4次確認調査について
- ③しろあと歴史館開館3周年記念特別展について
- ④平成17年度事業経過及び平成18年度事業方針（案）について
- ⑤市指定無形民俗文化財の指定について（答申）

文化財保護審議会委員

	氏名	専門
委員長	川上 貢	建造物
副委員長	井藤 徹	学識経験
委員	井上 正	美術工芸
委員	野田 昭三	記念物
委員	原 泰根	民俗文化財
委員	原口 正三	埋蔵文化財
委員	脇田 修	古文書

2.史跡今城塚古墳保存整備事業

□第9次規模確認調査

史跡整備の基礎データを集積するため、第9次規模確認調査を実施し、前方部のテラスの状況が判明した。また内堤北西コーナー部の埴輪列を確認した（3-V概要報告参照）

調査期間：6月27日～平成18年2月22日

□第2次整備工事

地下遺構を保存しつつ緑豊かな史跡公園として活用するため整備工事をおこなった。今年度は、後円部内堤と内濠の一部を復元するとともに、円筒埴輪（180点）を復元製作した。（施工面積約5400㎡）

工期：11月17日～平成18年3月30日

3.史跡鬮鷄山古墳保存整備事業

□第4次確認調査

史跡整備の基礎データを集積するため、第4次確認調査を実施し、前方部の形状と構築状況が判明した。また南側の土壇状遺構において埋葬施設を確認した。また保存環境調査を昨年度に引き続き実施した。（3-VI概要報告参照）

調査期間：10月17日～平成18年3月20日

4.史跡の土地の買上げ

史跡保存のため、嶋上郡衙跡附寺跡・安満遺跡・今城塚古墳の土地を買収した。

史跡名	17年度累計面積	公有化率
嶋上郡衙跡附寺跡	16,647.37㎡	17.0%
安満遺跡	20,653.15㎡	32.4%
今城塚古墳	84,447.06㎡	99.1%
鬮鷄山古墳	19,962.93㎡	96.1%

5.出土遺物保存処理

出土木製品の恒久的保存を図るため、樹脂含浸強化による保存処理をおこなった。

・史跡今城塚古墳出土木製品

6.収蔵・管理

□展示・保存環境調査報告

しろあと歴史館が、国指定文化財の展示公開が可能な公開承認施設としての認定を得るため、独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に、毎月1回、環境調査結果(温度・湿度・偏苛度)を報告し、指導を受けた。また、同研究所が導入を検討中の空気環境測定試薬「パッシブインジゲータ」の運用試験に協力し、収蔵室等の空気環境の簡易測定を実施した。

□収蔵品の燻蒸

収蔵文化財の殺虫・殺カビのため、燻蒸を2回実施した。

実施日：6月25日～28日、平成18年2月18日～21日

薬剤：従来使用してきたエキボン(臭化メチルを含む)が国際条約により今年から禁止されたため、エキヒュームへ切り替えた。

対象：新規寄贈及び寄託文化財、古文書、美術工芸品、民具、版本、書籍

□収蔵品の修繕

物件名：「鳥養惣中三箇牧惣中水利申合条々」

1巻

「川之町町絵図」

1舗

「古曾部焼開業届」

1通

「殿様おとり御定御免之事」

1通

実施期間：平成18年1月4日～3月20日

修繕内容：解体、クリーニング、裏打ち取替え、欠損部への補紙、軸首の取替え等。

7.文化財の寄贈・寄託

□掘り起こし調査に伴う寄贈・寄託

掘り起こし調査によって、市民等から寄贈・寄託された物件は、以下のとおりである。

寄贈物件 33件 131点

主な寄贈物件

・書画「崖佳人如意図」

苔の生えた崖と蘭の花を描いた書画で、絵は日根対山。藤井竹外が「五言絶句」の賛を寄せた作品である。

・「寛永三年二条城行幸絵巻」

江戸時代初期の後水尾天皇の二条城行幸の行列図である。本物件は、絵画や文字の特徴から、近世後期から幕末に成立したものと考えられる。

・古曾部焼「弁当箱」

信玄弁当と呼ばれる三つ重ねのもので、底部「古曾部」の銘印から4代五十嵐信平の作である。

・唐箕や織機など民具

寄託物件 16件 790点

主な寄託物件

・高槻藩士関係等文化財

旧藩士奥野家が所蔵する調度品・古文書・民具など12件

・藤井竹外関係資料

藤井竹外のご子孫から書幅・和本類等4件

8.文化財の指定

□史跡今城塚古墳の追加指定

平成18年1月26日付、文部科学省告示第9号

名称：史跡今城塚古墳附新池埴輪製作遺跡

概要：郡家新町557番地3他8筆及び水路敷を追加指定

面積：976.36㎡

□市指定の文化財

新たに以下の物件を市指定文化財に指定した。

種 別	名 称	所在地等	所有者等	指定年月日
有 形 文化財	本照寺山門附石橋	富田町	本照寺	平成17年6月14日
	本照寺東門	富田町	本照寺	平成17年6月14日
	本照寺鐘楼	富田町	本照寺	平成17年6月14日
	永井神社社殿附棟札4枚・高槻城絵馬	野見町	野見神社	平成17年6月14日
	永井神社唐門	野見町	野見神社	平成17年6月14日
	三輪神社社殿附棟札2枚・奉加帳序1巻	富田町	三輪神社	平成17年6月14日
	三輪神社絵馬所	富田町	三輪神社	平成17年6月14日
	三輪神社末社春日社附玉垣	富田町	三輪神社	平成17年6月14日
無 形 民 俗 文化財	磐手杜神社の神輿渡御神事	安満磐手町	磐手杜神社 御輿渡御神事保存会	平成18年2月21日
	八阪神社の春祭歩射神事	原	八阪神社春季大祭 (大蛇祭) 保存会	平成18年2月21日

Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用

1. しろあと歴史館

□特別展

- ・秋季特別展「人間国宝山崎旭萃と

筑前琵琶の世界」

会 期：10月1日～11月27日 48日間

観覧者数：3,931人

概 要：明治時代、九州地区で生み出された筑前琵琶。琵琶奏者として初めて「人間国宝」に認定された本市在住の山崎旭萃さんが愛用する琵琶や所蔵の資料、また活動などを紹介した。

主な展示品：花見車の琵琶、法服、筑前琵琶（四弦・五弦）、薩摩琵琶、弾法譜、橘会教本など 21件80点

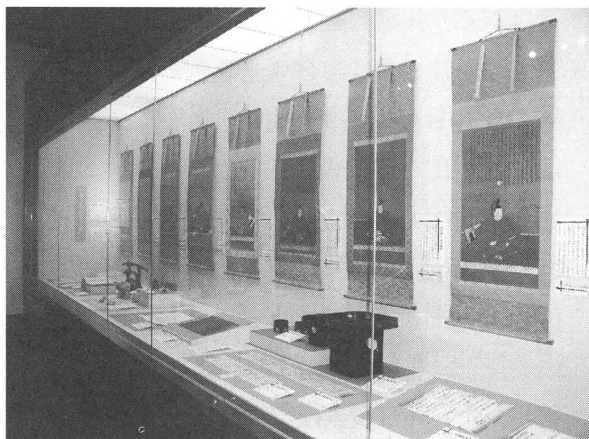
- ・開館3周年記念特別展「永井家十三代と高槻藩」

会 期：平成18年3月11日～5月28日 66日間

観覧者数：3,979人

概 要：慶安2年(1649)に永井直清が入城して以来、明治時代に至るまでの220年間十三代にわたって高槻藩政を担い、今日の高槻の基礎を築き上げてきた譜代大名永井氏。藩祖直清や歴代藩主に因む人物像のほか、藩政を支えた家臣団にかかわる資料など最新の調査成果を紹介した。

主な展示品：永井直清木像(悲田院蔵)、歴代藩



主画像(同)、足軽奉公人請状(個人蔵)、高槻藩分限帳(野見神社蔵)、旧藩士家伝来の武具・甲冑など 99件112点

□企画展

- ・第5回企画展「くらしの今&昔

—子ども文化財展」

会 期：7月16日～9月4日 44日間

観覧者数：2,959人

概 要：くらしの中で使われているさまざまな道具。その姿や形にみる工夫を古代から現代に至るまで、当館が所蔵する文化財を用いてわかりやすく紹介した。

主な展示品：三足羽釜、こしき、電気炊飯器、台付つぼ、すり鉢、洗面器、龍吐水、火消しはんてんなど 69件110点

- ・第6回企画展「ふるさとの春

思い出ハーモニー」

会 期：平成18年1月4日～2月26日 46日間

観覧者数：6,279人

概 要：懐かしい「日本の心」をテーマに、折り紙作家・中島正子さん、わらべ人形作家の堀川千代子さんの作品を紹介し、創作の世界へ誘った。また、さまざまな折り紙に挑戦できる体験コーナーを設けた。

主な展示品：「十二支」、「ふるさと情景」、「初詣」、「羽根つき」(以上、わらべ人形)、「スケート」、「獅子舞」、「雪の結晶」、「たこ揚げ」(以上、折り紙) 69件 357点

□分館 (歴史民俗資料館) 企画展

- ・「写真でみる歴史民俗資料館」

会期：1月4日～6月12日 136日間

・「季節の中の農具たち」

会期：6月15日～12月18日 162日間

□講座

・春季特別展連続講座「藤井竹外と幕末の高槻」

①5月8日「幕末の大坂と高槻」

講師：宮本裕次氏（大阪城天守閣主任学芸員）

②5月15日「藤井竹外と大塩中斎・頼山陽」

講師：酒井一氏（三重大学名誉教授）

③5月22日「藤井竹外と漢詩の世界」

講師：水田紀久氏（木村兼葭堂顕彰会代表）

参加者数：176人（全3回）

・第1回学芸員講座「古文書と絵図にみる高槻城」

6月30日

講師：西本幸嗣（しろあと歴史館学芸員）

参加者数：153人（全2回）

・第4回館長講座「義経とその時代」

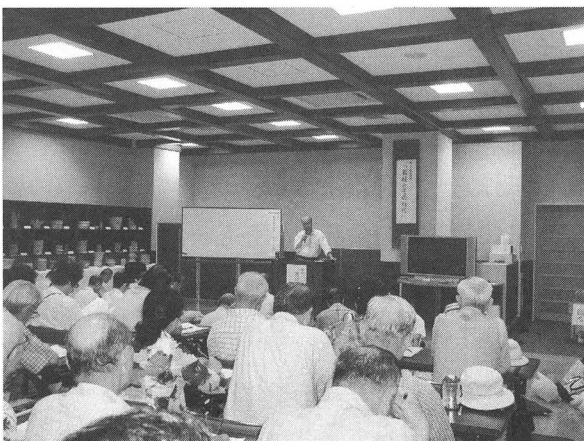
①7月15日「中世内乱の時代－院政と武士」

②7月22日「義経登場－勝者と敗者と」

③7月29日「転生のトポス－宇治と吉野」

講師：吉村亨（しろあと歴史館長）

参加者数：199人（全3回）



・第2回学芸員講座「古墳を築く

－今城塚の調査から」

8月4日

講師：宮崎康雄（文化財課主査）

参加者数：73人

・秋季特別展 記念講演会

「筑前琵琶の世界にふれる」

①10月10日「西洋から見た筑前琵琶の美」

講師：シルヴァン・ギニャール氏

（大阪学院大学国際学部教授）

②10月14日「語り物芸能と琵琶」

講師：植木行宣氏

（元京都学園大学人間文化学部教授）

参加者数：88人（全2回）

・現地公開講座「紅葉の北摂山岳寺院を訪ねて」

11月27日

講師：南谷恵聖氏（安岡寺住職）

近藤真道氏（神峯山寺住職）

参加者数：44人

・第5回館長講座「天下統一期の都市生活と風俗」

①2月16日「洛中洛外図屏風」をどう読むか」

②2月23日「画像でみる上杉本「右隻」詳解」

③3月2日「画像でみる上杉本「左隻」詳解」

講師：吉村亨（しろあと歴史館長）

参加者数：232人（全3回）

□教室

・夏休み工作教室

①8月23日「縄文ポシェット」

講師：三宅恭子氏

②8月25日「鳴きセミ・飛び出すブンブン」

講師：松田夏生氏、宇津木登代子氏

参加者：92人（全2回）

・そばづくり体験教室

①8月6日「オリエンテーション」

②8月20日「種まき」

③9月3日「土寄せ」

④11月13日「収穫」

⑤11月26日「脱穀」

⑥12月10日「そばうち」

参加者：171人（全6回）

・淀川三十石船舟唄入門教室

①10月18日 ②10月25日 ③11月1日

④11月8日 ⑤11月15日

講師：淀川三十石船舟唄大塚保存会

参加者数：93人（全5回）

□秋季特別展記念演奏会「筑前琵琶の調べ」

日程：10月8日

演者：奥村旭翠氏・高橋旭妙氏・岸根旭誠氏・
藤田旭秀氏

1階エントランスホールにおいて夜間に筑前琵琶日本橋会に演奏を開催。幻想的な音色を奏する筑前琵琶の世界に触れる機会を提供した。



□「綿花の苗」の無償配布

しろあと歴史館及び分館に来館された方に綿花の苗の無償配布を行った。

2.文化財ボランティア

「歴史遺産を活かしたまちづくり」の一環として、市民も含めた積極的な文化財普及活動を進め、地域に根ざした文化財の保護・啓発に協働することを通じて、郷土の歴史・文化に対する市民の理解と愛護意識の向上をはかる。そのため、段階的に育成講座を実施し、文化財スタッフの育成をはかった。

□文化財ボランティア基礎講座

・第3期文化財ボランティア基礎講座

〈歴史の案内人入門〉

①10月7日「文化財の宝庫・高槻の歴史と風土」

講師：森田克行（文化財課主幹）

②10月21日「文化財の鑑賞と基礎知識」

講師：吉村 亨（しろあと歴史館長）

③10月28日「高槻の仏像」

講師：滝沢幸恵氏（吹田市立博物館学芸員）

④11月11日「高槻の民俗」

講師：藤森寛志（しろあと歴史館専門員）

〈高槻の歴史入門〉

①11月18日「原始・古代のあゆみ」

講師：宮崎康雄（文化財課主査）

②11月25日「古代から中世へ」

講師：高橋公一

（埋蔵文化財調査センター技師）

③12月2日「城郭にみる高槻」

講師：中西裕樹（埋蔵文化財調査センター）

④12月9日「近世のあゆみ」

講師：西本幸嗣（しろあと歴史館学芸員）

〈歴史の散策入門〉

①12月16日「阪急高槻市駅周辺コース」

講師：千田康治（しろあと歴史館学芸員）

②1月13日「阪急富田駅周辺コース」

講師：井坂武男（しろあと歴史館専門員）

③1月20日「JR摂津富田駅周辺コース」

講師：西本幸嗣（しろあと歴史館学芸員）

④1月27日「JR高槻駅周辺コース」

講師：藤森寛志（しろあと歴史館専門員）

・「文化財ボランティア基礎講座修了証」の発行
基礎講座3コース全12回のうち、10回以上受講し、修了判定で合格した人に対して「文化財ボランティア基礎講座修了証」を発行した。

第3期修了証交付 修了人数 63人

□文化財スタッフ入門講座

・第2期文化財ボランティア入門講座

① 5月21日「文化財と人とのふれあい」
「博物館友の会活動のやりがい・生きがい」

講師：山本徳治郎氏（野洲歴史民俗博物館
友の会会長）・藤村和夫氏（同副会長）

② 5月28日・29日「ハニワづくりとスケッチ・
ぬり絵大会でハニワづくり実習」

講師：埋蔵文化財調査センター技師・
しろあと歴史館学芸員

③ 6月2日・4日「展示説明と舞台裏見学」

講師：埋蔵文化財調査センター技師・
しろあと歴史館学芸員

④ 6月9日・11日「調査見学と考古資料
の取り扱い」

講師：埋蔵文化財調査センター技師・
しろあと歴史館学芸員

⑤ 6月18日「グループワーク」

講師：しろあと歴史館学芸員



・第3期文化財ボランティア入門講座

① 2月17日「文化財と人とのふれあい」

講師：佐々木俊氏
（大山崎町ふるさとガイドの会会長）

② 2月21日・24日「展示説明と舞台裏見学」

講師：しろあと歴史館学芸員

③ 2月28日・3月3日「歴史館の体験学習」

講師：しろあと歴史館学芸員

④ 3月7日・10日「調査見学と考古資料
の取り扱い」

講師：埋蔵文化財調査センター技師・
しろあと歴史館学芸員

⑤ 3月17日「グループワーク」

講師：しろあと歴史館学芸員

・「文化財スタッフ認定証」の発行

入門講座を修了した人に対して「文化財スタッ
フ認定証」を発行した。

第2期認定書交付 認定人数 40人

第3期認定書交付 認定人数 56人

□主な文化財スタッフの活動

・文化財スタッフ実習・研修

より高度かつ実践的な知識・技能を習得し、レ
ベルアップを図るため、実習・研修を実施した。

① 6月23日～25日、9月23日

「常設展案内研修」

② 7月6日・7日「ハニワ野焼き体験」

③ 7月8日・10日「ぞうり作り体験」

④ 7月24日・31日

「縄文ポシェット作り事前研修」

⑤ 3月23日～25日「特別展研修」

⑥ 11月2日、22日「大ぞうりづくり実習」

⑦ 1月4日～7日「企画展研修」

⑧ 3月8日～10日「特別展研修」

・サポート活動

日常の常設展案内や講座・教室以外で、次のよ
うなサポートを実施した。



- ① 8月28日 今城塚古墳修羅引きイベント及び
現地説明会
- ② 10月8日 秋季特別展演奏会
- ③ 11月9日 普門寺庭園清掃
- ④ 11月9日 ぞうりづくり (北日吉台小学校)
- ⑤ 11月23日 淀川三十石船舟唄全国大会
- ⑥ 12月10日 第9次今城塚古墳現地説明会
- ⑦ 2月4日 第4次鬮鶏山古墳現地説明会

・部会

高槻の文化財に対する知識の取得、自己研鑽を目的として次の6つの部会を発足させ、自主的な学習活動を開始した。

散策部会・拓本部会・郷土玩具部会・考古部会・
伝統文化部会・古文書部会

3. 第13回淀川三十石船舟唄全国大会

大阪府指定無形民俗文化財「淀川三十石船唄」の継承、普及、発展を図るため第13回全国大会を実施した。

日程：11月23日

会場：現代劇場中ホール

出場者：277人 (ジュニアの部33人)

入場者：650人

共催：淀川三十石船舟唄全国大会実行委員会

4. ハニワづくりとスケッチ・ぬり絵大会

史跡新池ハニワ工場公園にて開催

日程：5月28・29日

参加者：752人

展示：7月27日～31日

(ジャスコシティ高槻にて)

5. 古代体感イベント「千人で運ぶ大王の石棺」

史跡今城塚古墳とその整備事業を全国に発信するため、平成16年度整備地を舞台に古代体感イベント「千人で運ぶ大王の石棺」を開催。

熊本県宇土半島馬門(まかど)産の阿蘇ピン

ク石で復元した家形石棺を巨大なそり＝修羅にのせ、一般募集の市民の方々や近隣の小学生などおよそ1,500人が「エイシャー！」の掛け声を合図に心をひとつにして綱を引くと、修羅はみごとに動き、1500年前に行われた修羅引きの様子が再現された(口絵3上段)。

日程：8月28日

参加者：2,500人

また、このイベントにちなんだ歴史シンポジウム「継体大王とその時代－史跡今城塚古墳の実像を求めて－」を開催した。

内容：

「継体大王とその時代」

水野正好氏 (奈良大学名誉教授)

「二人のホド王－継体新王朝の歴史的背景－」

和田萃氏 (京都教育大学教授)

「6世紀前半の倭国における今城塚古墳」

白石太一郎氏 (奈良大学教授)

「今城塚古墳と九州勢力」

和田晴吾氏 (立命館大学教授)

「継体大王期の日朝関係」

田中俊明氏 (滋賀県立大学教授)

「淀川と継体大王」

森田克行 (文化財課主幹)

「今城塚古墳の実像に迫る」

宮崎康雄 (文化財課主査)

日程：9月25日

場所：現代劇場大ホール

参加者：1,040人



6.現地説明会

□史跡 鬮鷄山古墳第4次確認調査

日程：平成18年2月4日

参加者：531人

□史跡 今城塚古墳第9次規模確認調査

日程：8月28日（第1回）

参加者：2,252人

日程：12月10日（第2回）

参加者：925人

7.施設見学会の受け入れ

市広報広聴室市民相談センターが一般市民を対象とした施設見学会の受け入れた。

しろあと歴史館3件

8.市内中学校の受け入れ

市内中学校からの協力依頼に基づき職業体験実習及び、総合的な学習の指導を実施した。

□職業体験

しろあと歴史館：川西中学校・第八中学校・阿武山中学校・第六中学校・芝谷中学校・第三中学校・冠中学校

計 7校 延べ13日・29人

埋蔵文化財調査センター：第二中学校

計 1校 延べ1日・1人

□総合的な学習

埋蔵文化財調査センター：芝谷中学校

計 1校 延べ1日・7人

9.文化財の活用

・ 図書を受納 2,153冊（歴史館185冊
埋文センター1,968冊）

・ 掲載許可・貸出 50件285点

[歴史館13件68点（写真68点 資史料0点）

埋文センター37件217点（写真121点遺物96点）]

10.文化財公開施設の利用状況

・ しろあと歴史館 31,104人

・ （分館）歴史民俗資料館 17,055人

・ 埋蔵文化財調査センター 2,415人

・ 史跡新池ハニワ工場公園 15,645人

・ 青龍三年の丘（安満宮山古墳） 4,470人

2 平成18年度

I 文化財の調査及び研究

1.文化財の調査

□掘り起こし調査

実施日：4月1日～3月31日

しろあと歴史館の展示資料の充実及び本市の歴史・文化の発掘のため、文化財の掘り起こし調査を24件実施し、資料化を図った。(2-Ⅱ-7.文化財の寄贈・寄託 参照)

・特別展開催に伴う文化財調査

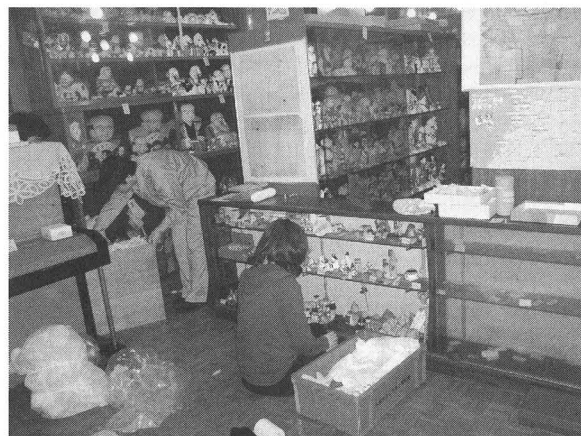
特別展「三島古墳群の成立～初期ヤマト政権と淀川～」の開催にあたり、市外の関係機関に所蔵される考古資料の調査を行い、展示の充実と研究の進展に努めた。

調査先：大阪府立近つ飛鳥博物館、京都大学総合博物館、京都大学考古研究室、茨木市立文化財資料館など

□古文書の整理

高槻市史編纂時から所蔵する古文書及び特別展開催に際して収集した古文書について、目録作成、写真撮影・データ入力に努めた。

□奥村寛純郷土玩具コレクションの整理



昭和30年代後半から収集した全国の郷土玩具及び関連資料約25,000点が奥村寛純氏から平成16年7月5日に寄贈された。

これらの郷土玩具は、全国屈指の質と量を誇る伏見人形をはじめ、作成年代が江戸・明治時代にさかのぼるもの、すでに廃絶したものなども数多く、歴史的・文化的にも貴重な資料群である。本年度は、旧所蔵者宅からコレクションの全点を当館に運搬・収蔵し、特別展「伏見人形とその系譜」開催にあたり、展示資料について写真撮影・データ入力・図録作成を行った。

個人住宅	造成・擁壁・分譲住宅	共同住宅等建物	上・下水道水路	電気・ガス等工事	駐車場・倉庫等	史跡管理	試掘・確認調査	その他	合計
20	11	4	6 (1)	4 (1)	1 (1)	4 (4)	2 (2)	4 (2)	56 (11)

表4 届出地別調査及び立会件数

下段()内は史跡現状変更許可申請に伴うもの

遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計	遺跡名	調査	立会	小計
嶋上郡衙跡	6	9	15	津之江南遺跡	2		2	悉壇寺跡		1	1
塚原古墳群	1		1	宮之川原遺跡		1	1	安満遺跡	3	2	5
闘鶏山古墳	1		1	芥川山城跡		1	1	鵜殿遺跡		1	1
中城遺跡		3	3	天神山遺跡		2	2	梶原寺跡	1	1	2
今城塚古墳	3	1	4	慈願寺山遺跡	1		1	上牧遺跡		1	1
郡家今城遺跡	2	3	5	芥川遺跡	1	2	3	合計	24	32	56
郡家本町遺跡	1		1	上田部遺跡	1	1	2				
宮田遺跡	1		1	高槻城跡		3	3				

表5 遺跡別調査及び立会件数

No	遺跡名(地区)	所在地	届出者	用途	面積(m ²)	種別
1	史跡嶋上郡衙跡(2006-A)	清福寺町988-1	高槻市教育委員会	フェンス工事	L=19.5m	調査
2	嶋上郡衙跡(2006-B)	郡家新町地内	北斗コーポレーション	分譲住宅	50.13	立会
3	嶋上郡衙跡(2006-C)	川西町一丁目959-3	個人	個人住宅建設	97.78	立会
4	嶋上郡衙跡(2006-D)	郡家新町156-8	個人	個人住宅建設	49.26	立会
5	嶋上郡衙跡(2006-E)	郡家新町156-24の一部	個人	個人住宅建設	52.05	立会
6	嶋上郡衙跡(2006-1)	郡家本町895-1・2	個人	個人住宅建設	1,144.83	立会
7	嶋上郡衙跡(2006-2)	清福寺町919-17,18	個人	個人住宅建設	78.92	立会
8	嶋上郡衙跡(2006-F)	川西町一丁目1015-5の一部	みどりヶ丘病院	福祉施設	400.92	立会
9	嶋上郡衙跡(2006-3)	郡家新町390-2	個人	個人住宅建設	148.15	立会
10	史跡嶋上郡衙跡(2006-G)	郡家新町1137	高槻市	下水道建設	63.82	調査
11	嶋上郡衙跡(2006-H)	郡家本町541-2他	春樹会	ケアハウス	1881.06	調査
12	嶋上郡衙跡(2006-I)	郡家新町39	郡家本町実行組合	排水路整備	37	立会
13	嶋上郡衙跡(2006-J)	郡家新町地内	高槻市	下水道建設	43.77	調査
14	史跡嶋上郡衙跡(2006-K)	清福寺町982-3	高槻市	物置設置	10.53	調査
15	史跡嶋上郡衙跡(2006-L)	川西町一丁目974-1	高槻市教育委員会	遊具補修	1.17	調査
16	塚原古墳群(2006-A)	塚原三丁目61-2	高槻市	道路改良	20	調査
17	史跡鬮鶏山古墳(2006-1)	氷室町六丁目	高槻市教育委員会	確認調査	433	調査
18	中城遺跡(2006-1)	昭和台二丁目152-2	個人	個人住宅建設	110	立会
19	中城遺跡(2006-A)	昭和台二丁目152-1	セイケンハウス	分譲住宅	113.34	立会
20	中城遺跡(2006-B)	昭和台二丁目152-3	セイケンハウス	分譲住宅	110	立会
21	史跡今城塚古墳(2006-1)	郡家新町686-5	高槻市教育委員会	規模確認調査	320	調査
22	史跡今城塚古墳(2006-A)	郡家新町1-1・2他	高槻市教育委員会	整備工事	14730	調査
23	今城塚古墳(2006-2)	氷室町一丁目562-3・25	個人	個人住宅建設	116.48	立会
24	史跡今城塚古墳(2006-B)	郡家新町550,660他	高槻市教育委員会	工事フェンス	L=600m	調査
25	郡家今城遺跡(2006-A)	今城町118他	野村不動産	宅地造成	4,739	調査
26	郡家今城遺跡(2006-B)	今城町118,130-1	野村不動産	擁壁工事	77	立会
27	郡家今城遺跡(2006-C)	今城町118,130-1	野村不動産	擁壁工事	220	立会
28	郡家今城遺跡(2006-D)	今城町118,130-1	野村不動産	分譲住宅	130	立会
29	郡家今城遺跡(2006-E)	今城町118,130-1	野村不動産	分譲住宅	260	調査
30	郡家本町遺跡(2006-A)	郡家本町地内	高槻市	下水道建設	1664	調査
31	宮田遺跡(2006-A)	宮田町三丁目93	個人	共同住宅	412	調査
32	津之江南遺跡(2006-A)	津之江北町264-1他	山本ハウジング	分譲住宅	1,000	調査
33	津之江南遺跡(2006-B)	津之江北町263-1	山本ハウジング	分譲住宅	1,034.73	調査
34	宮之川原遺跡(2006-A)	宮之川原五丁目527-16	個人	個人住宅建設	88.38	立会
35	芥川山城跡(2006-A)	原2432-1他	個人	個人住宅建設	538.9	立会
36	天神山遺跡(2006-A)	天神町一丁目3-25	大阪ガス	ガス工事	85.13	立会
37	天神山遺跡(2006-B)	天神町一丁目95番先	高槻市水道事業管理者	水道工事	504	立会
38	慈願寺山遺跡(2006-A)	奥天神町二丁目13-7他	タイホーハウジング	宅地造成・分譲住宅	8,186	調査
39	芥川遺跡(2006-A)	殿町51-2他	個人	個人住宅建設	329.27	立会
40	芥川遺跡(2006-1)	殿町63	個人	個人住宅建設改修	1,000	立会
41	芥川遺跡(2006-2)	殿町51-1,54-5	個人	個人住宅建設	242	調査
42	上田部遺跡(2006-A)	城北町一丁目471-9他	高槻市農業協同組合	事務所建設	2,325.62	調査
43	上田部・八丁松原(2006-B)	上田部・八丁畷町地内	大阪府水道部	水道工事	293.42	府立会
44	高槻城跡(2006-1)	八幡町1052-6	個人	個人住宅建設	88.02	立会
45	高槻城跡(2006-2)	八幡町1052-34	個人	個人住宅建設	88.37	立会
46	高槻城跡(2006-3)	八幡町1052-35	個人	個人住宅建設	107.09	立会
47	悉壇寺跡(2006-1)	成合北の町617-1	個人	個人住宅建設	162.42	立会
48	史跡安満遺跡(2006-A)	八丁畷町	高槻市教育委員会	フェンス工事	L=29m	調査
49	安満遺跡(2006-B)	八丁畷町279-1他	関西電力	電気設備工事	37	立会
50	史跡安満遺跡(2006-C)	八丁畷町336-3	関西電力	鉄塔補修	232	調査
51	史跡安満遺跡(2006-D)	八丁畷町405地先	高槻市	道路舗装	10.5	調査
52	安満遺跡(2006-E)	高垣町287-1の一部	個人	個人住宅建設	91.49	立会
53	鶴殿遺跡(2006-A)	鶴殿地先	淀川河川事務所長	土砂掘削	15,000	立会
54	梶原寺跡(2006-1)	梶原一丁目261-1,262-1の各一部	個人	個人住宅建設	296.61	調査
55	梶原寺跡(2006-A)	梶原一丁目368-2の一部他	個人	個人住宅建設	110.46	立会
56	上牧遺跡(2006-A)	上牧町五丁目496-1他	関西電力	電気設備工事	10.15	立会

表6 平成18年度調査地一覧

期 間	担当者	調 査 内 容
18.4.21~6.7	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工
18.5.10	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.7.18	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.8.7	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.8.28	宮 崎	遺構面に達せず。
18.9.28	宮 崎	※盛土内の工事。遺構・遺物無し。
18.9.11	高 橋	※地表下1.1mで瓦器・土師器出土。
18.10.2	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.11.27~28	橋 本	※盛土内の工事。遺構・遺物無し。
19.2.26~3.2	西 村	史跡現状変更。地表下0.8~1.5mで灰褐色砂礫層の地山を確認。土師器・須恵器出土。
19.3.9	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
19.3.13	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
19.3.16~30	西 村	地表下0.8~1.1mでにぶい橙色粘土の地山を確認。土坑検出。須恵器・土師器・瓦器・瓦出土。
19.3.30	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工。
19.3.22	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工。
19.1.11	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.10.12~19.3.29	高 橋	史跡現状変更。盛土状況の把握。後円部東側丘陵斜面の状況確認。(第5次)本書掲載。
18.7.24	橋 本	※地表下0.25mで赤褐色土の地山を確認。遺構・遺物無し。
18.7.27	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.7.28	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.12.1~19.3.30	宮 崎	史跡現状変更。後円部北側で滑落した石室基盤工を検出。内濠南西コーナーの護岸列石を確認。本書掲載。
18.8.7~19.9.8	宮 崎	史跡現状変更。申請どおり実施を確認。
18.9.8	宮 崎	※地表下0.45mで黄灰色年度の地山を確認。遺構・遺物無し。
18.10.13	宮 崎	史跡現状変更。申請どおり実施を確認。
18.7.5~10.31	橋 本	奈良時代の溝・掘立柱建物・井戸などを検出する。
19.1.15	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
19.1.29	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
19.3.27	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
19.3.27	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.5.18~9.22	西 村	地表下0.5~1.8mで灰褐色粘土~黄褐色砂質土の地山を確認。須恵器・土師器・瓦器・陶磁器出土。
18.6.13	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.9.20~10.10	高 橋	本書掲載。
19.3.6~27	西 村	方形周溝墓3基・柱穴・溝等検出。本書掲載。
19.3.12	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.6.5	西 村	地表下0.4mで黄橙色砂質土の地山確認。遺構・遺物無し。
18.8.21	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.10.17	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
19.2.19	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.4.24	西 村	地表下0.6mで灰褐色粘土の遺物包含層を確認。瓦器出土。
18.10.23~24	橋 本	※地表下0.3mで黄灰色土の地山を確認。遺構・遺物無し。
19.1.30~2.1	橋 本	※地表下0.5mで黄灰色砂礫の地山を確認。遺構・遺物無し。
19.2.8	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.9.15~11.13	大阪府	大阪府教育委員会が調査。
18.8.8	橋 本	※地表下1.4mで外堀の堆積土とみられる青灰色粘土を確認。遺構・遺物無し。
18.9.25	橋 本	※地表下1.4mで外堀の堆積土とみられる青灰色粘土を確認。遺構・遺物無し。
18.9.26~27	橋 本	※地表下1.2mで外堀の堆積土とみられる青灰色粘土を確認。遺構・遺物無し。
18.11.20~21	橋 本	※地表下0.8mで砂礫混じりの黄褐色土の地山を確認。遺構・遺物無し。
18.4.21~6.7	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工
18.8.29	高 橋	遺構面に達せず。
19.3.23	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工。
19.3.28	橋 本	史跡現状変更。申請どおりに施工。
19.3.20	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
19.3.14	橋 本	河床堆積層を確認。遺構・遺物無し。
19.1.19~22	橋 本	※地表下1.5mで青灰色砂礫の地山を確認。遺構・遺物無し。
19.2.22	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。
18.7.19	橋 本	盛土内の掘削。遺構・遺物無し。

遺跡別調査年月日別に配列 ※は高槻市文化財調査概要34「嶋上遺跡群31」に掲載

2.埋蔵文化財の調査

□平成18年度の調査（表4～6）

平成18年度の土木工事に伴う埋蔵文化財調査の届出件数は繰越分を含めて62件で、このうち21遺跡について、発掘調査24件（現状変更11件を含む）、工事立会32件をそれぞれ実施した（表6参照 大阪府立会分を含む）。

調査件数が多いのは郡家今城遺跡（発掘調査2件・工事立会3件）、嶋上郡衙跡（発掘調査2件・工事立会9件）である。郡家今城遺跡では三島高校東側における大規模な分譲住宅建設に伴い道路部分について発掘調査を実施し、奈良時代の遺構などが検出された。宅地部分や周辺整備については随時、発掘調査と工事立会を実施した。嶋上郡衙跡では個人住宅建設工事に伴う工事立会が多い。また、下水道築造工事、水路整備工事に伴う発掘調査、工事立会も実施しているが顕著な遺構は検出されなかった。津之江南遺跡では宅地造成工事に伴う発掘調査で、平安時代から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が検出されている。高槻城跡も外堀部分での個人住宅建設に伴う工事立会が目立つ。

なお、史跡今城塚古墳、史跡鬮鷄山古墳では継続して規模確認調査を実施した。

3.文化財資料等の刊行

- ・「平成18年度秋季特別展図録 三島古墳群の成立－初期ヤマト政権と淀川－」
- ・「平成18年度春季特別展図録 伏見人形とその系譜－奥村寛純コレクション展－」
- ・「奥村寛純コレクション 伏見人形ポストカード」
- ・「史跡・今城塚古墳－平成17年度第9次規模確認調査－」
- ・「高槻市文化財調査概要34 嶋上遺跡群31」
- ・「古代の匠に挑戦！ 石棺復元体験への手引き－竜山石編」
- ・「高槻市文化財調査報告書第25冊 鬮鷄山古墳石槨画像・環境調査報告書」
- ・「史跡安満遺跡保存管理計画」

Ⅱ 文化財の保護及び保存

1.文化財保護審議会

文化財保護審議会委員の選出

任期：平成18年5月8日～平成20年5月7日

文化財保護審議会委員

	氏名	専門
委員長	川上 貢	建造物
副委員長	井藤 徹	学識経験
委員	井上 正	美術工芸
委員	鈴木 登	天然記念物
委員	原 泰根	民俗文化財
委員	原口 正三	埋蔵文化財
委員	脇田 修	古文書

・第1回：7月24日

- ①役員を選出について
- ②平成18年度事業計画について
- ③史跡今城塚古墳調査・整備及び史跡鬮鷄山古墳調査について
- ④しろあと歴史館企画展・特別展について
- ⑤その他

・第2回：平成19年2月27日

- ①平成18年度事業経過報告・平成19年度事業方針（案）について
- ②史跡今城塚古墳第10次規模確認調査及び第3次整備工事について
- ③史跡鬮鷄山古墳平成18年度調査について
- ④しろあと歴史館春季特別展について

2.史跡今城塚古墳保存整備事業

□第10次規模確認調査

史跡整備にむけ、第10次規模確認調査を実施した。調査の結果、後円部北側で滑落した石室

基盤工を検出した。また、内濠南西コーナーの護岸列石を確認した。（3-V概要報告参照）

調査期間：12月1日～平成19年3月30日

□第3次整備工事

地下遺構を保存しつつ緑豊かな史跡公園として活用するため整備工事をおこなっている。今年度は後円部内堤と内濠の一部を築造当初の形状に復元したほか、内堤に展示する形象埴輪（高床の家3点、巫女10点、武人4点）を製作した。

工期：8月7日～平成19年9月28日

3.史跡鬮鷄山古墳保存整備事業

□第5次確認調査

史跡整備の基礎データを集積するため、第5次確認調査を実施した。調査の結果、前方部の盛土状況が明らかになった。また、墳丘東側の地山状況を確認するとともに、地殻変動に伴うとみられる地割れの痕跡が見つかった。さらに保存環境調査を引き続き実施した。（3-VI概要報告参照）

調査期間：10月12日～平成19年3月29日

4.史跡の土地の買上げ

史跡保存のため、嶋上郡銜跡附寺跡・安満遺跡・今城塚古墳の土地を買収した。

史跡名	18年度累計面積	公有化率
嶋上郡銜跡附寺跡	21,860.21m ²	22.3%
安満遺跡	20,903.21m ²	32.3%
今城塚古墳	84,447.06m ²	99.1%
鬮鷄山古墳	19,962.93m ²	96.1%

5.出土遺物保存処理

出土金属製品の恒久的保存を図るため、アクリル系樹脂含浸強化による保存処理をおこなった。

- ・上土室遺跡出土鉄製品 4点

6.収蔵・管理

□展示・保存環境調査報告

しろあと歴史館が、国指定文化財の展示公開が可能な公開承認施設としての認定を得るため、独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に、毎月1回、環境調査結果(温度・湿度・偏苛度)を報告し、指導を受けた。平成19年3月7日に職員2名を東京文化財研究所へ派遣し、展示・保存環境の改善策と、19年度秋季特別展に国指定重要文化財の美術工芸品を展示するにあたっての保存科学上の問題について協議を行った。

□収蔵品の燻蒸等

収蔵する文化財の殺虫・殺カビのため、燻蒸を2回実施した。

実施日：9月6日～9日、

平成19年3月1日～3日

使用薬剤：エキヒューム

対象：新規寄贈及び寄託文化財、古文書、美術工芸品、民具、版本、書籍

また、害虫による生物被害を未然に防ぐため、捕獲トラップを用いた保存環境調査を実施。

実施日：19年2月15日～3月2日

□収蔵品の修繕

物件名：「永井直清書状」 1通1巻

実施期間：平成19年3月9日～3月31日

修繕内容：解体、クリーニング、裏打ち取替え、補紙、折れ伏せ等を実施。

7.文化財の寄贈・寄託

□掘り起こし調査に伴う寄贈・寄託

掘り起こし調査によって、市民等から寄贈・寄託された物件は、以下のとおりである。

寄贈物件 35件 142点

主な寄贈物件

- ・「永井家系図」

- ・「永井尚政由緒書」

高槻藩の旧藩士家が所蔵した古文書。淀藩永井家(本家)筋の系図や由緒書を写したもので、元々淀藩に付いた藩士家であることが伺える。

- ・「八幡町島川家旧蔵文書」

名寄帳や田畑売買などの土地関係や金銭の貸し借り関係、水利関係の町方文書

- ・「唐崎村字弥右衛門屋敷堤切破絵図」(寄贈)

明治初期、淀川の字弥右衛門屋敷の堤防決壊の状況を示す地図

- ・「木馬」

芥川宿の「伝馬取締役」を勤めた家に伝わるもので、馬の試し乗り用に旅客が利用した民具である。

- ・「縄ない機」

寄託物件 5件 73点

主な寄託物件

- ・清福寺民間信仰資料

江戸時代後期から近代にかけて村で行っていた伊勢講や行者講に関する古文書

- ・柱本村庄屋文書

宗旨(宗派)御改帳や村の明細帳など近世の地方文書約70点

8.文化財の指定

□指定解除

- ・国指定重要無形文化財：琵琶奏者 山崎旭萃氏
死亡につき解除

Ⅲ 文化財の普及啓発及び活用

1. しろあと歴史館

□特別展

・秋季特別展「三島古墳群の成立

～初期ヤマト政権と淀川～

会 期：10月7日～11月26日 42日間

観覧者数：3,089人

概 要：大小500基余もの古墳で形成された三島古墳群。この造営主体である地域王権が拡充していく様について、初期ヤマト政権と淀川をキーワードに探った。初の重要文化財展示となる安満宮山古墳出土品、初公開となる土保山古墳の木棺などを紹介。

主な展示品：壺形埴輪(将軍山古墳)、長方板革綴短甲(岡本山A3号墳)、葺石(牧野車塚古墳)、甲冑形埴輪(土室遺跡)、円筒埴輪(太田茶臼山古墳)など 75件135点



・春季特別展「伏見人形とその系譜

～奥村寛純コレクション展～

会 期：平成19年3月17日～5月13日 49日間

観覧者数：3,370人

概要：我が国の土人形の源流とされる伏見人形。淀川を経て大坂、そして北前船によって全国へ運ばれました。本展では全国有数の伏見人形コレクションでもある奥村寛純コレクション(当館蔵)から、その多様な姿や系譜、人々の思いな

どを紹介した。

主な展示品：饅頭喰い(伏見人形)、熊金(同)、布袋(同)、三番叟(堤人形)、天神(三次人形)、山姥(弓野人形)など 286件286点

□企画展

・第7回企画展「動物へのまなざしー人との交流 ／高槻市文化財スタッフの会 活動展」

会 期：6月27日～9月3日 60日間

観覧者数：2,793人

概要：時の移ろいの中で育まれた人々の動物観。当館が所蔵する文化財を用いて、古代から現代に至るまでをわかりやすく紹介した。

主な展示品：龍を飾った大鎧、鹿の絵のある土器片(安満遺跡)、猪の埴輪(昼神車塚古墳)、兎の香合(古曾部焼)、羽織猫(伏見人形)など 77件97点

また、同時に当館で活躍するボランティア「高槻市文化財スタッフの会」活動を写真パネルや自主学习で製作した作品などを通じて紹介した。



・第8回企画展「春を呼ぶ新収藏品展

～文字の味わい・絵の彩り～

会期：平成19年1月4日～2月28日 49日間

観覧者数：3,333人

概要：文化財の掘り起こし調査などを通じ、市民の皆さんから寄贈いただくなどした新収蔵品。この中から高槻藩ゆかりの古文書や浮世絵などの絵画類を展示し、色とりどりの文字や絵が描かれた文化財を紹介した。

主な展示品：永井尚政由緒書、御小姓勤書、寛永三年二条城行幸絵巻、『山崎大合戦之図』、『里見八犬伝』、『北斎画譜』など 54件 83点

□分館（歴史民俗資料館）企画展

・「体験・機織りの技」

会期：7月19日～12月24日 136日間

□講座

・開館3周年記念特別展連続講座

「永井家十三代と高槻藩」

①4月9日「江戸幕府と譜代大名」

講師：笠谷和比古氏

（国際日本文化研究センター教授）

②4月16日「江戸時代の高槻藩と地域社会」

講師：藪田 貫氏（関西大学教授）

③4月23日「後西天皇の禁裏造営と永井直清」

講師：野村 玄氏

（大阪青山短期大学専任講師）

④4月30日「高槻城の歴史的位置」

講師：森田克行（しろあと歴史館館長）

参加者数：495人（全4回）

・フィールドワーク「城跡探訪」

4月23日～30日

参加者数：305人（全7回）

・第3回学芸員講座「古曾部焼

－近世陶磁史の中で－」

6月21日

講師：橋本久和（文化財課主査）

参加者数：83人（全2回）

・第4回学芸員講座「高山右近の登場と高槻」

6月22日・23日

講師：中西裕樹（文化財課主査）

参加者数：114人（全2回）

・秋季特別展連続講座「三島古墳群をめぐって」

①10月8日「安満宮山古墳を掘る」

講師：鐘ヶ江一朗

（埋蔵文化財調査センター所長）

②10月22日「三島の前・中期古墳について」

講師：岸本直文氏（大阪市立大学大学院

文学研究科助教授）

③10月29日「鬮鷄山古墳を掘る」

講師：高橋公一

（埋蔵文化財調査センター技師）

④11月12日「高槻・古墳発掘史」

講師：水野正好氏

（財団法人 大阪府文化財センター理事長）

⑤11月19日「三島古墳群の成立と展開」

講師：森田克行（しろあと歴史館館長）

参加者数：748人（全5回）

・連続講座「城と城下をゆく－摂津・和泉編」

①1月28日

「城郭の見方と高槻城」

講師：中西裕樹（文化財課主査）

「高槻城3D映像について」

講師：吉川 眞氏

（大阪工業大学工学部教授）

②2月4日「尼崎城と尼崎藩」

講師：室谷公一氏（尼崎市教育委員会歴博・

文化財担当学芸員）

③2月11日「大坂城と城下町大坂」

講師：北川 央氏

（大阪城天守閣研究副主幹）

④2月18日「岸和田城と岸和田藩」

講師：山中吾朗氏

（岸和田市立郷土資料館担当長学芸員）

参加者数：244人（全4回）

・第6回館長講座「弥生時代の三島を語る」

①2月14日「弥生土器の世界

ーその独創性と地域色」

②2月21日「農耕集落の動向

ーネットワーク社会の枠組み」

講師：森田克行（しろあと歴史館館長）

参加者数：114人（全2回）

・春季特別展記念講演会

「伏見人形とその系譜をめぐって」

3月25日

記念講話「伏見人形への思い」

講師：奥村寛純氏

（元伏見郷土玩具資料館館主）

基調講演〈1〉「土人形はなぜ作られたのか」

講師：石沢誠司氏

（京都府立文化芸術会館館長）

基調講演〈2〉「考古学からみた人形の出現」

講師：木立雅朗氏（立命館大学文学部教授）

シンポジウム「伏見人形とその系譜

をめぐって」

パネラー：奥村寛純氏、石沢誠司氏、木立雅朗氏、藤森寛志（しろあと歴史館専門員）

コーディネーター：森田克行（しろあと歴史館館長）、西本幸嗣（しろあと歴史館学芸員）

参加者数：102人

□教室

・拓本教室

8月3日～5日

講師：高槻市文化財スタッフの会

参加者数：16人（全3回）

・おもちゃづくり教室

8月25日～27日

講師：高槻市文化財スタッフの会

参加者数：63人（全3回）

・体験教室 古代織り挑戦

8月18日～10月6日

講師：高槻市文化財スタッフの会

参加者数：160人（全8回）

□高槻城3D映像公開

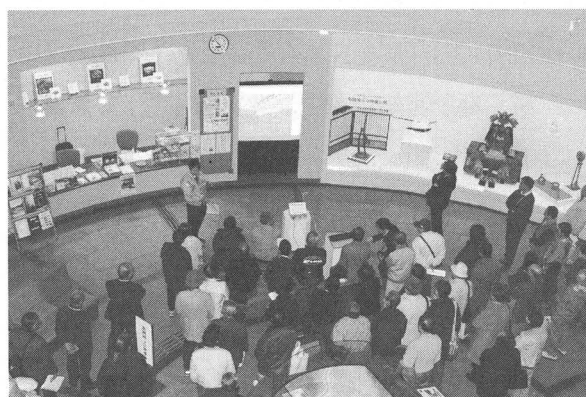
「e-たかつき」計画のひとつとして大阪工業大学工学部都市デザイン工学科空間デザイン研究室（吉川眞教授）と協力して作成を進めていた「高槻城3D映像ー城と城下をゆく」が完成し、館内及び市ホームページで公開した（現在も公開中）。また、次の関連事業を実施した。

・高槻城3D映像公開

1月28日～2月28日

内容：館内で映像を操作し、来館者へかつての高槻城の様子を説明した

参加者数：238人（全8回）



・フィールドワーク「しろあと探訪」

1月28日～2月28日

参加者数：41人（全4回）

□「綿花の苗」の無償配布

しろあと歴史館及び分館に来館された方に綿花の苗の無償配布を行った。

2.文化財ボランティア

「歴史遺産を活かしたまちづくり」の一環として、市民も含めた積極的な文化財普及活動を進め、地域に根ざした文化財の保護・啓発に協働することを通じて、郷土の歴史・文化に対する市民の理解と愛護意識の向上をはかる。そのため、段階的に育成講座を実施し、文化財スタッフの育成をはかった。

□文化財ボランティア基礎講座

・第4期文化財ボランティア基礎講座

〈歴史の案内人入門〉

①8月18日「文化財の宝庫・高槻の歴史と風土」

講師：鐘ヶ江一朗

(埋蔵文化財調査センター所長)

②8月25日「文化財の鑑賞と基礎知識」

講師：西本幸嗣(しろあと歴史館学芸員)

③9月1日「武具・甲冑の見方」

講師：千田康治(しろあと歴史館学芸員)

④9月8日「民俗資料を知る」

講師：藤森寛志(しろあと歴史館専門員)

〈高槻の歴史入門〉

①9月15日「原始・古代のあゆみ」

講師：宮崎康雄(文化財課主査)

②9月22日「古代から中世へ」

講師：高橋公一(埋蔵文化財調査センター技師)

③9月29日「中世から近世へ」

講師：中西裕樹(文化財課主査)

④10月6日「近世のあゆみ」

講師：井坂武男(しろあと歴史館専門員)

〈歴史の散策入門〉

①10月27日「阪急高槻市駅周辺コース」

講師：西本幸嗣(しろあと歴史館学芸員)

②11月3日「JR高槻駅周辺コース」

講師：藤森寛志(しろあと歴史館専門員)

③11月10日「JR摂津富田駅周辺コース」

講師：中西裕樹(文化財課主査)

④11月17日「阪急富田駅周辺コース」

講師：井坂武男(しろあと歴史館専門員)

・「文化財ボランティア基礎講座修了証」の発行

基礎講座3コース全12回のうち、10回以上受講し、修了判定で合格した人に対して「文化財ボランティア基礎講座修了証」を発行した。

第4期修了証交付 修了人数 47人

□文化財スタッフ入門講座

・第4期文化財ボランティア入門講座

①12月8日「文化財と人とのふれあい」

講師：佐々木峻氏

(大山崎ふるさとガイドの会前会長)

②12月12日・15日「展示説明と舞台裏見学」

講師：しろあと歴史館学芸員

③1月16日・19日「歴史館の体験実習」

講師：しろあと歴史館学芸員

④1月23日・26日「調査見学と考古資料

の取り扱い」

講師：埋蔵文化財調査センター技師・

しろあと歴史館学芸員

⑤2月2日「グループワーク」

講師：しろあと歴史館学芸員

・「文化財スタッフ認定証」の発行

入門講座を修了した人に対して「文化財スタッフ認定証」を発行した。

第4期認定書交付 認定人数 47人

□主な文化財スタッフの活動

・文化財スタッフ実習・研修

より高度かつ実践的な知識・技能を習得し、レベルアップを図るため、実習・研修を実施した。

また、市外の文化財ボランティア団体との交流を行うとともに、特別展・企画展への知識を深めるための市外研修を行った。

①6月22日～25日「企画展研修」

②9月30日「市外研修・滋賀県野洲市方面」

③10月4日～6日「特別展研修」

④12月22日・23日「企画展研修」

⑤1月20日「高槻城3D映像公開研修」

⑥2月25日「三好山(芥川山城跡)探訪」

⑦3月4日・31日「市外研修・京都府向日市方面」

⑧3月13日・14日「企画展研修」

・サポート活動

日常の常設展案内や講座・教室以外で、次の

ようなサポートを実施した。

- ① 4月23日～30日 フィールドワーク「城跡探訪」
- ② 5月27日・28日 ハニワづくり大会
- ③ 11月23日 淀川三十石船舟唄全国大会
- ④ 11月29日 歴史講演会「石で造る 石で運ぶ」
- ⑤ 1月28日～2月18日 高槻城3D映像「城と城下をゆく」、「しろあと探訪」
- ⑥ 1月23日～2月16日 石棺復元体験
- ⑦ 3月4日 第9次今城塚古墳現地説明会

・協働活動事業

一層の文化財啓発を進めるため、特別展・企画展開催中の展示室内の監視業務を市から受ける「協働活動事業」を開始した。

・歴史サロン

高槻の歴史に対する理解と関心をより高めるため、身近な歴史を話題に市職員や会員相互の対話を座談会形式で実施する「歴史サロン」を開始した。2ヶ月に1度のペースで開催。



3. 第14回淀川三十石船舟唄全国大会

大阪府指定無形民俗文化財「淀川三十石船舟唄」の継承、普及、発展を図るため第14回全国大会を実施した。

日程：11月23日

会場：現代劇場中ホール

出場者：291人（ジュニアの部36人）

入場者：650人

共催：淀川三十石船舟唄全国大会実行委員会

4. ハニワづくりとスケッチ・ぬり絵大会

史跡新池ハニワ工場公園にて開催

日程：5月27・28日

参加者：745人

展示：7月26日～30日

（ジャスコシティ高槻にて）

5. 石棺復元体験イベント「古代の匠に挑戦！」

史跡今城塚古墳とその整備を全国に発信するために開催。今城塚古墳から出土している3種類の石棺を、毎年一基ずつ市民参加を得て復元し、古代の技術を体験しようとするもので、今年度は、和田晴吾氏（立命館大学教授）の指導のもと、兵庫県高砂産の竜山石製家形石棺の復元に取り組んだ。復元した刳抜式家形石棺は、蓋と身を合わせた大きさが幅2.6m、奥行1.4m、高さ1.8m、重さ9t。高砂市魚橋山の石切り場で切り出し、中国アモイで大まかな成形を終え、今城塚古墳に搬送。そして、応募された市民の方々とともに、手作業で「荒削り」「荒仕上げ」「仕上げ」の工程を体験し、古代の石棺製作技術に思いをはせた。（口絵3下段）

実施日：平成19年1月23日～2月16日の7日間

参加者数：221人（延べ）

また、復元体験の事前研修として歴史講演会を開催した。

□歴史講演会「石で造る 石を運ぶ —今城塚古墳の石棺をめぐる—」

開催日：11月29日

場所：現代劇場中ホール

参加者数：214人

「今城塚古墳の石棺」

講師：宮崎康雄（文化財課主査）

「石棺を造る」

講師：和田晴吾氏（立命館大学教授）

「石棺を運ぶ」

講師：北垣聰一郎氏

（檀原考古学研究所共同研究員）

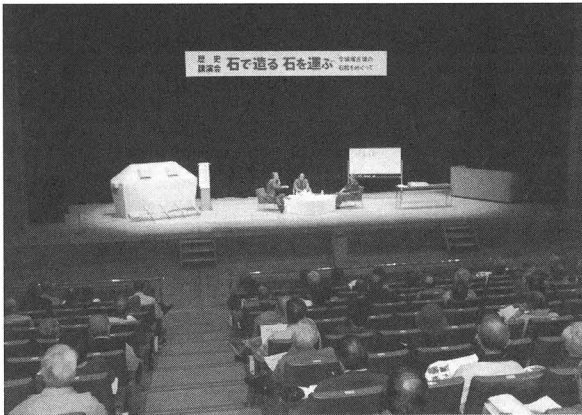
鼎談「石と考古学 その面白さ

ーヤジリから城石垣までー」

和田 晴吾氏

北垣聰一郎氏

森田克行（文化財担当参事）



6.現地説明会

□史跡 今城塚古墳第10次規模確認調査

日程：平成19年3月4日

参加者：5,170人

7.施設見学会の受け入れ

市広報広聴室市民相談センターによる一般市民を対象にした施設見学会を受け入れた。

・しろあと歴史館：3件

8.市内中学校の受け入れ

市内中学校からの協力依頼に基づき、職業体験実習及び、総合的な学習の指導を実施した。

□職業体験

・しろあと歴史館：川西中学校・第八中学校・第六中学校（2回）・第三中学校・阿武山中学校（2回）・冠中学校・第二中学校

計 7校 延べ16日・27人

□総合的な学習の指導

・埋蔵文化財調査センター：阿武野中学校

計 1校 延べ1日・12人

9.新任教員の社会体験活動研修の受け入れ

異職種の実験を通じながら、地域社会と連携し、教員の資質及び能力の向上をはかる研修の一環として、新任教員2名を埋蔵文化財調査センターに受け入れ、文化財の普及・啓発活動の研修を実施した。

実施日：7月30日

樋口友佳子（郡家小学校）

鳥居栄比子（郡家小学校）

実施日：8月10・11日

管 宏子（第十中学校）

10.文化財の活用

・図書の受納 2,586冊（歴史館193冊

埋文センター2,393冊）

・掲載許可・貸出 55件186点

[歴史館19件68点（写真64点 資史料4点）

埋文センター34件116点（写真34点遺物82点）文化財チーム2件2点]

11.文化財公開施設の利用状況

・しろあと歴史館 30,943人

・（分館）歴史民俗資料館 17,894人

・埋蔵文化財調査センター 2,563人

・史跡新池ハニワ工場公園 13,763人

・青龍三年の丘（安満宮山古墳） 4,039人

3 概要報告

I 塚原古墳群(2005-A)の調査

西村 恵 祥

阿武山の南斜面に展開する塚原古墳群は、約150基の古墳が確認され、明治初期に大阪造幣局の英国人技師ゴーランドが調査したとして学史的にも著名である。

中腹から麓にかけての地域では、住宅の建設に伴い平成14年度にはA62・A63号墳、15年度にはD1・H3・K1号墳、16年度にはA82号墳の調査を実施した。17年度にはA57号墳と、11年度にA57b号墳として報告したA58号墳と、新規に確認されたA59号墳の3基の古墳の発掘調査を実施したので概略を報告する(図版第1・2)。

A57号墳 塚原古墳群の中でも南に展開するA支群の北部に位置する。墳丘は頂部及び南側が削平されている。直径東西約16.5m、南北約16.0mの円墳と復元でき、現存高は2.7mである。内部主体は南に開口する無袖式横穴式石室と推定され、石材は奥壁とそれに続く両側壁下部の一石を残しすべて抜き取られていた。玄室は幅約1.5mで、長さは約3.6mと推定される。羨道部は完全に削平され、規模は不明である。玄室床面には一辺5~10cmの小礫が敷かれ、須恵器・土師器・鉄製品が小礫の間から出土した。

A58号墳 A57号墳の西側隣接し、西側は既存建物の下部となる。南裾は道路、頂部及び北側は削平されている。直径東西約13.0m、南北約14.8mの円墳と復元でき、現存高は約2.0mである。内部主体は南に開口する無袖式横穴式石室で、石材は羨道部下部の一部を残しすべて抜き取られていた。玄室は幅約1.2m、長さ約2.6m、羨道は幅約1.2m、現存長3.3mと推定される。石室床面には一辺5~15cmの礫が敷かれ、須恵器・金環・鉄製品が礫の間から出土している。

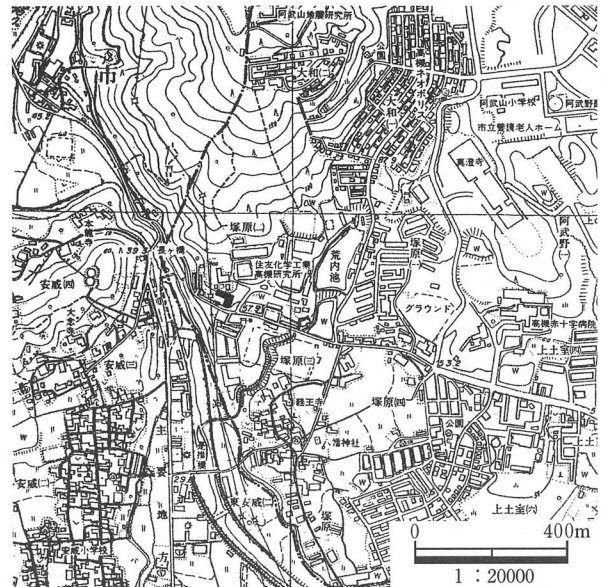


図1 塚原古墳群(2005-A)調査位置図

A59号墳 A57号墳とA58号墳の北側約15mの位置にあり、墳丘は大きく削平されていた。直径は東西約10.2m、南北約10.7mの円墳と復元でき、現存高約3.0mである。内部主体は南に開口する無袖式横穴式石室で、羨道部の一石を残しすべて抜き取られていた。玄室は幅約1.3m、長さ約2.0mと推定され、羨道は幅約1.3m、現存長2.3mである。羨道部床面には一辺5~30cmの礫が敷かれ、礫の間から土師器・鉄製品が出土し、墳丘内から埴輪の小片も出土した。

まとめ 密集して築造されているA支群にあって、周辺の古墳と比較すると3基の古墳は急峻な斜面に立地し、開口方向もほぼ同一方向であることから1小支群を形成するとみられる。

こうした小支群は単位集団として捉えることが可能とみられ、A支群内での位置づけが今後の課題である。

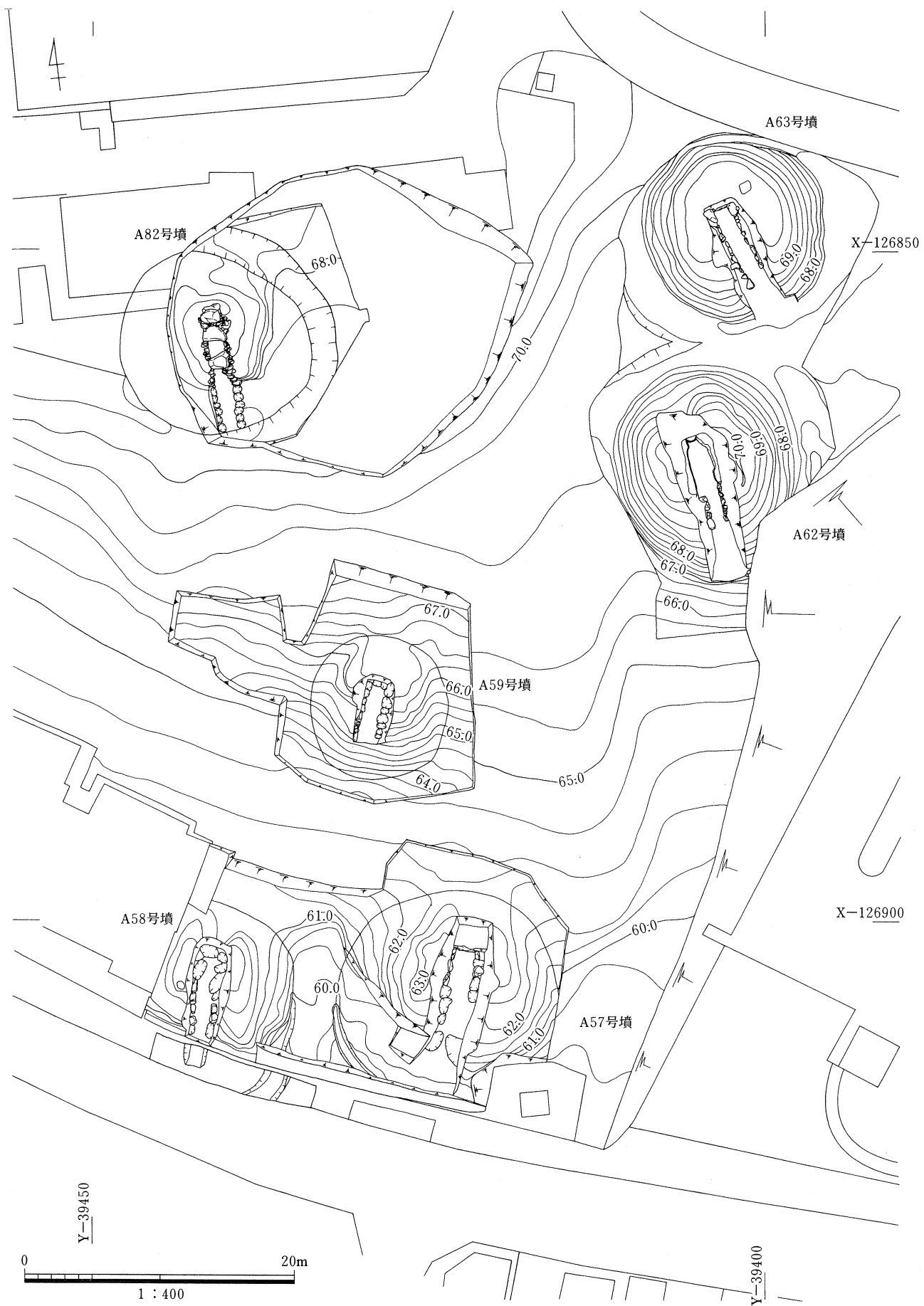


图2 塚原古墳群遺構平面図

II 嶋上郡衙跡(2005-F)の調査

橋本久和

当該地は史跡嶋上郡衙跡附寺跡の指定地南側に隣接する。店舗建設工事が計画されたため、平成18年2月から5月にかけて発掘調査を実施した。郡庁院は調査地東方の市立川西小学校北側に推定される一方、調査地西側では正倉とみられ並倉を含む大型の建物群が検出されていることから、当該地は史跡指定地外ではあるが嶋上郡衙を構成する遺構や遺物類が検出されるものと想定された。

層序は盛土(約1m)、耕土・床土(0.1~0.2m)、暗褐色土(0.1~0.2m・遺物包含層)、黄褐色土(地山)となるが、攪乱が著しい。しかし、黄褐色土上面を精査したところ、弥生時代から奈良時代にかけての遺構・遺物を検出した(図版第3)。

弥生時代の遺構は竪穴住居がある。竪穴住居1は一辺約6mの方形で、西北隅部が部分的に拡張されている。中央の炉跡を中心に4個の柱穴が、南側の周溝に沿うように直径0.5mの円形土坑が検出された。柱穴や土坑から後期の土器が出土している。竪穴住居1の南東隅に接するように幅約0.1mの周溝が4条検出された。うち3条はL字状に屈折し竪穴住居の隅部とみられるため、合計4棟の竪穴住居が営まれた。

調査区の全域から奈良時代の建物跡、柵列、溝、井戸などを検出した。建物跡はいずれも方形の柱穴で、方向が磁北から10°西に偏する南北棟の4棟(建物1~4)と、これらに直行する東西棟の2棟(建物5・6)がある。

建物1は2間(柱間2.3m)×5間(柱間1.8m)で、西北隅は基礎のため攪乱されている。建物2は2間(柱間2.4m)×7間(柱間2.0m)以上で、東側柱筋を建物1に揃えている。建物3は2間(柱間2.4m)×4間(柱間2.3m)以上で、調査地北側に伸びている。建物4は2間(柱間2.3m)×5間

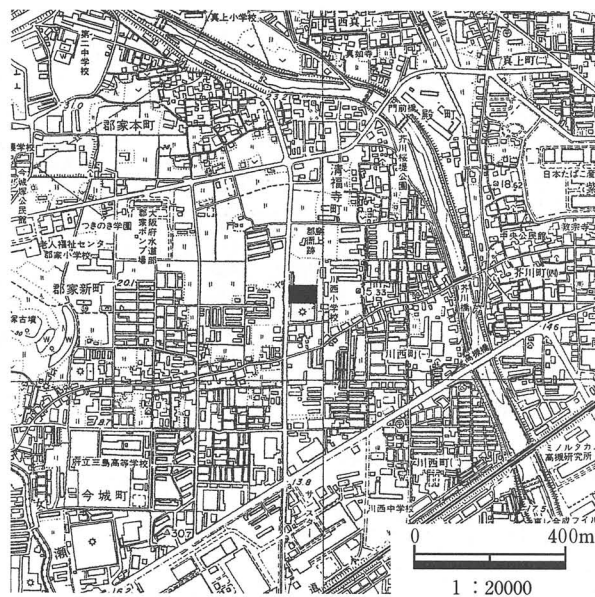


図1 嶋上郡衙跡(2005-F)調査位置図

(柱間1.6m)で、建物3と重複している。建物5は2間(柱間2.3m)×5間(柱間1.6m)以上で、建物4と重複する。建物6は東西3間(柱間2.5m)を確認した。大半は調査区外となるが、他の建物の柱穴が一辺約1mであるのに対し、一辺約1.5m、柱間も2.5mと規模が大きい。

柵列は磁北から10°東に偏するもので、南北6間(柱間2.4m)×東西4間(柱間2.3m)が確認され、柵列の南西隅部外側に幅約1mの溝が掘削されている。調査区の南西隅で、南北約10m、深さ約0.3mを測る落込み1を検出した。周縁部に拳大の石を敷き詰めており、土器・瓦・硯などが出土している。

当調査地周辺部のこれまでの調査では、嶋上郡衙跡に関連する遺構や遺物が出土している。今回の調査で検出された建物群は棟の方向や柱筋を規則的に揃え、大規模な柱穴をもつ建物もある。また、出土遺物には瓦や硯などもあり、これらは嶋上郡衙を復元するうえで貴重な資料である。



図2 嶋上郡衙跡遺構平面図

Ⅲ 郡家今城遺跡(2006—A)の調査

橋本久和

郡家今城遺跡は奈良・平安時代の集落遺跡で嶋上郡衙の盛衰と密接に関連する。府立三島高校を中心にして建物跡や井戸などが多数検出され、奈良時代の屋敷地が復元できる貴重な遺跡である。出土遺物には奈良三彩・緑釉陶器・灰釉陶器・越州窯系青磁などがあり、嶋上郡衙の官人層が居住した可能性がある。また、三島高校東北部を中心にナイフ型石器など旧石器関係の遺構・遺物も多数検出されている。

このたび、三島高校東側に隣接した地域において分譲住宅建設工事が計画されたため、発掘調査を実施した。調査は既存建物解体工事の進行にあわせ、道路部分に限定して平成18年7月から10月にかけて実施した。

調査地は広大であるが、基本的な層序は0.5~1mの盛土を除去すると耕土(0.1~0.2m)、床土(0.1~0.2m)と堆積し、すぐに黄灰色土となる。これまでの調査では、黄灰色土上面で各種の遺構が検出されている。遺物包含層が殆ど確認できないのは、大正時代に実施された耕地整理によって水田の削平が行なわれたためである。

図2に遺構が検出された地域を網目(A区~D区)で示した。三島高校敷地内で検出された奈良・平安時代の遺構が調査地中央部から西南部にかけて広がっていることを確認した。既存建物の基礎により攪乱された部分が多く、調査地北部と東南部では遺構・遺物は検出されなかった。攪乱や耕地整理による削平も影響しているが、もともと遺構が希薄な地域であると考えられる。

柱穴などの密集具合は比較的粗く、遺構は散在している。時期は主に奈良時代とみられる(図3)。

A区では調査区西部の壁際に一辺約3mの方形の井戸1を検出した(図版第4c)。壁際であるた

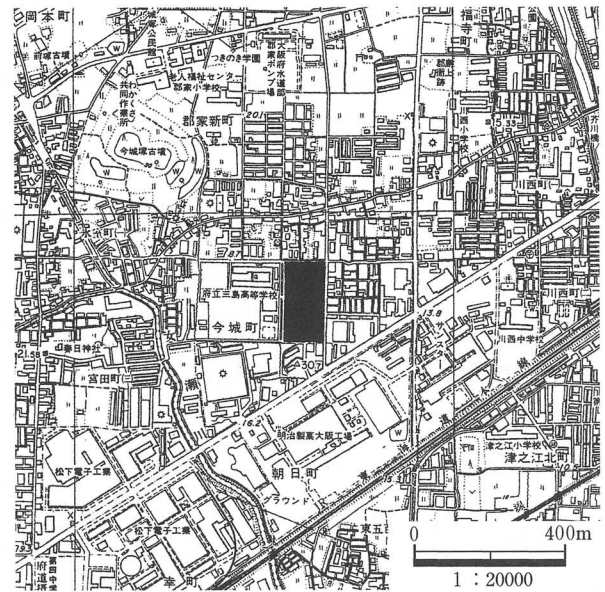


図1 郡家今城遺跡(2006-A)調査位置図

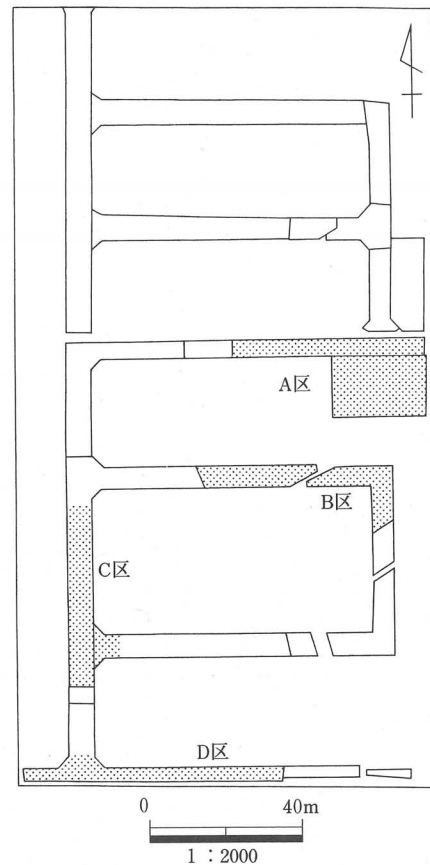


図2 調査区配置図

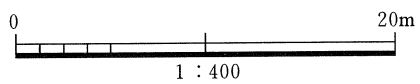
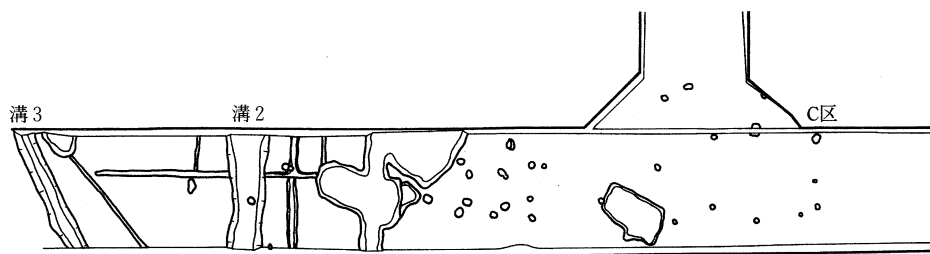
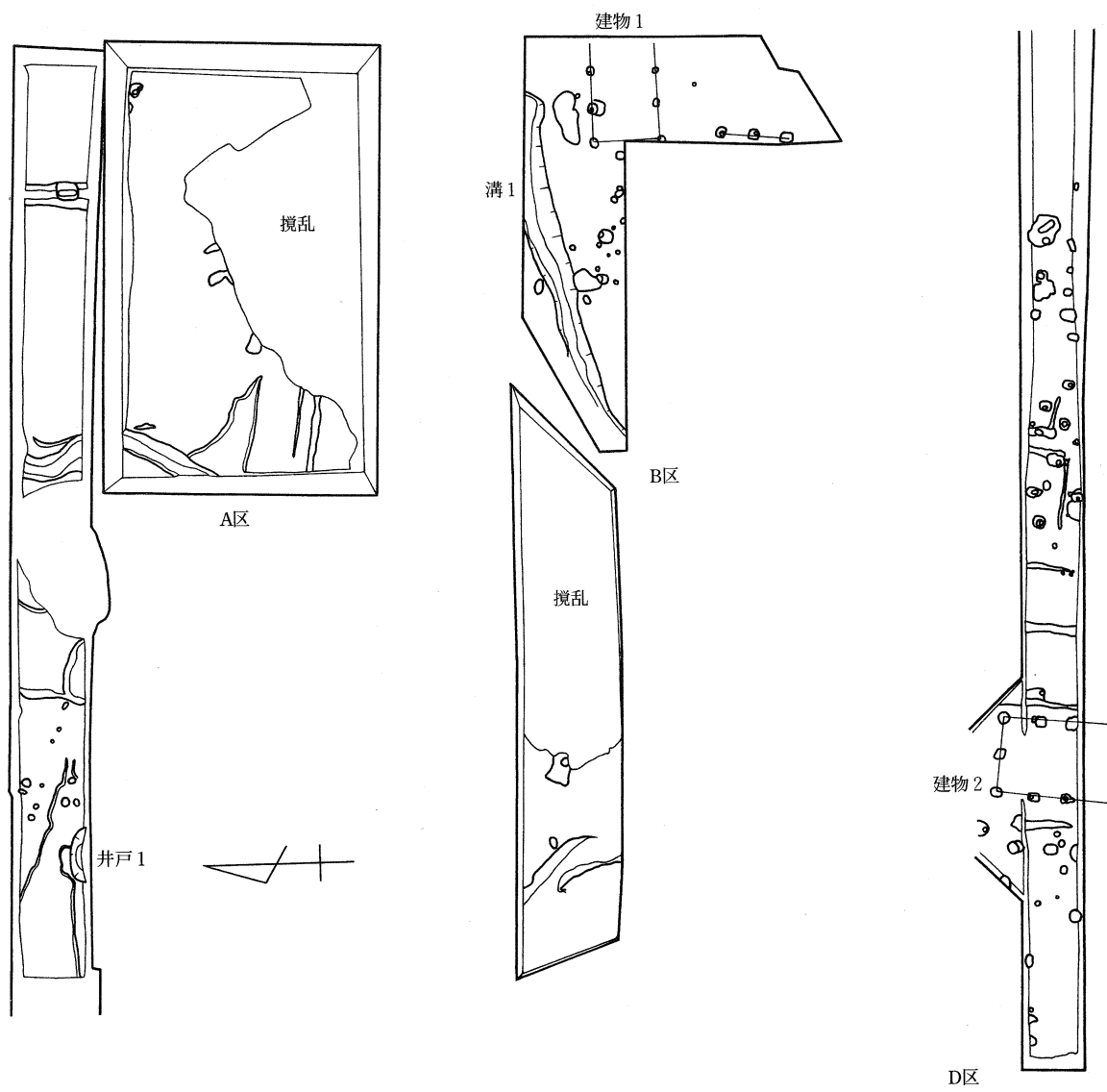


图3 遺構平面図

め、深さ約1mまで調査できたが底部は確認できなかった。また、井戸枠は抜き取られ、掘形の一部を調査したのみである。井戸の埋土から土師器・須恵器の破片が多数出土した。周辺には小ピットが散在しているが建物としてまとめることはできなかった。

A区東南部は攪乱が著しいが、溝や土壙状の遺構を検出している。

B区では幅1～2m、深さ0.4mの溝1を検出し、奈良時代の土師器・須恵器が多量に出土した。溝1の南側には柱穴が比較的密集して検出された。2間(柱間1.8m)×2間(柱間2m)以上の東西方向の建物1と南側に2間(柱間1.8m)の柱列が確認され、西側に広がっているようである(図版第4a)。また、奈良時代の不定形な土壙が周辺で検出されている。

C区では幅2m・深さ0.3mの東西方向の溝2と幅1.2m・深さ0.7mの斜め方向の溝3が検出された。いずれもしっかりとした掘形である。やはり周辺に小ピットが散在しているが、建物としてまとめることはできない。

D区では2間(柱間2m)×2間(柱間2m)以上の南北方向の建物2が検出された(図版第4b)。柱穴は一辺約1mを測る方形のしっかりした掘形で、柱根の残るものもある。建物2周辺では柱穴や土壙が比較的密集しているが、東側では遺構はまったくみられなくなる。

三島高校建設時などの調査では内部に井戸を含む屋敷地が隣接して検出されている。今回の調査では、井戸や建物はA区からB区にかけての地域とD区の2個所で検出された。屋敷地を復元することはできないが、郡家今城遺跡の広がりを確認することができた。

IV 津之江南遺跡(2006—A・B)の調査

高橋公一・西村恵祥

津之江南遺跡は芥川と女瀬川の合流点に近い標高10m前後の低位段丘南端にある遺跡で、これまでに弥生時代の前期の土壌、中期の方形周溝墓、後期の竪穴住居、古墳時代の木棺墓、奈良～鎌倉時代の掘立柱建物、鎌倉時代の総柱建物などを検出している。今回の調査地は、高槻市津之江北町263-1にあたり、小字は岸之下である。

[A地区の調査] (図版第5a)

A地区では南・北地区の調査を実施し、奈良時代の柱穴、中世の井戸・小溝・溝・柱跡・土壌等を検出した。

柱穴1は調査区北辺で全体の2/3を検出した。一辺約0.8mの方形とみられ、深さは0.7mで、土師器小片が出土した。

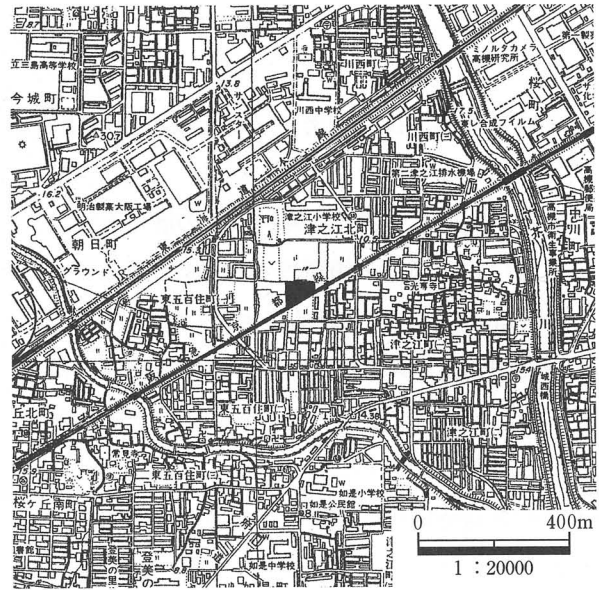


図1 津之江南遺跡(2005-A・B)調査位置図

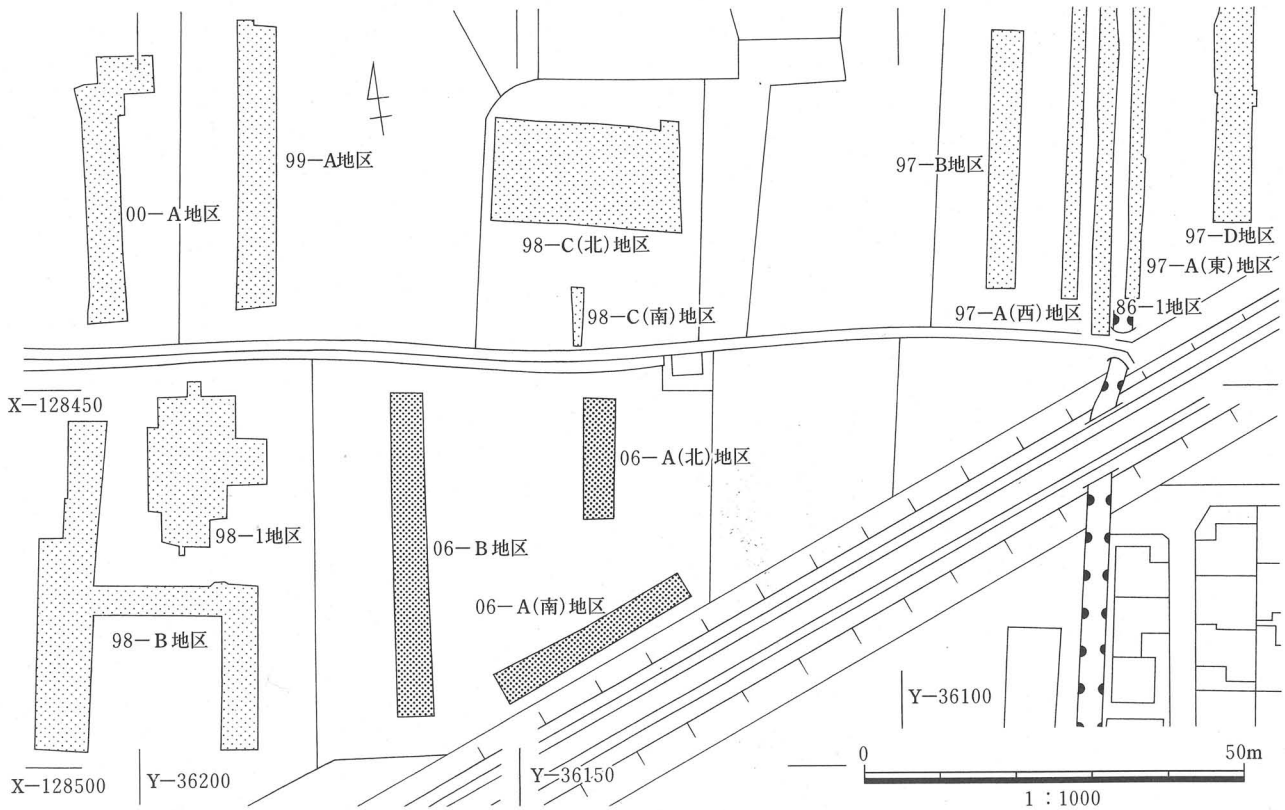


図2 津之江南遺跡 調査区配置図

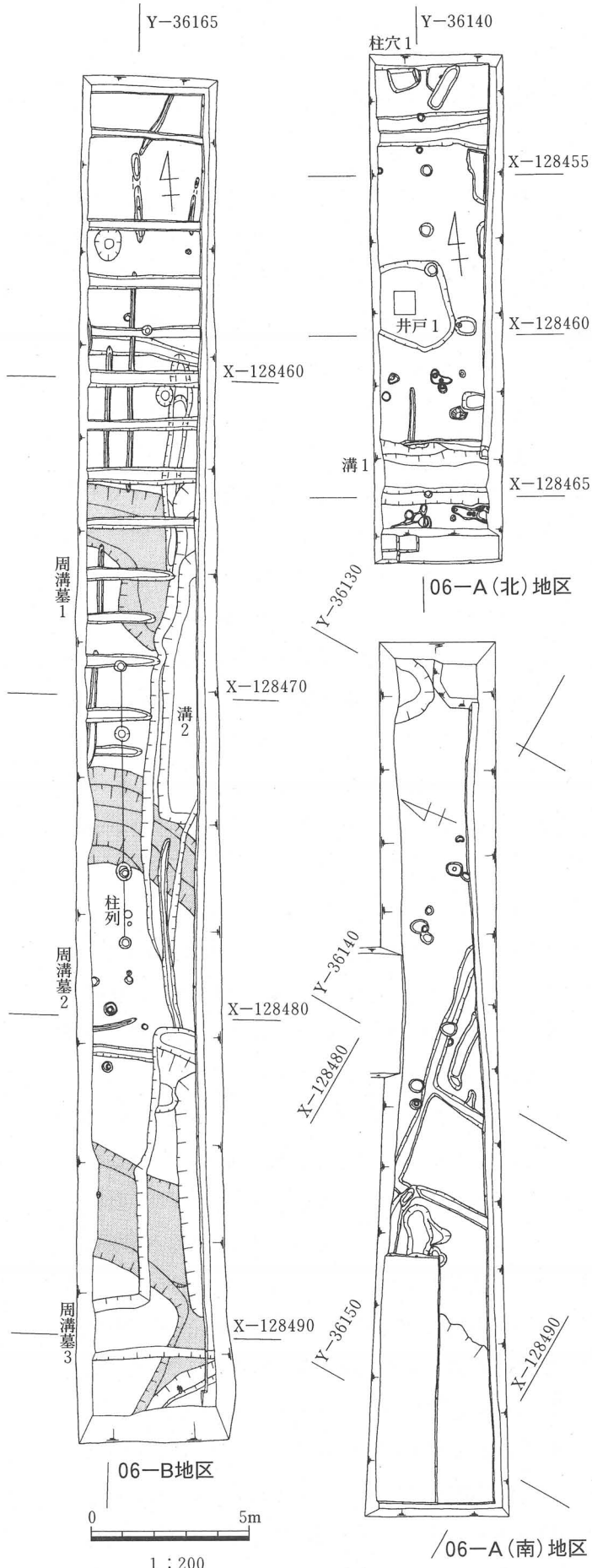


図3 遺構平面図

井戸1は、一辺約2.5mの不定方形の掘形の中央に横板井籠組の木枠を備える。木枠内法は一辺0.7mで、4段分、約2.2mが遺存していた。枠内から12世紀中頃の瓦器碗が多数出土した。

小溝は、幅約0.5mで北地区では東西方向、南地区では東西及び南北方向にはしる。

溝1は幅1.8m、深さ0.6mの東西溝で、掘りなおしの痕跡が確認できたほか、瓦器等が出土した。柱跡は直径0.4~0.5mの円形で、柱根が遺存しているものもあるが、まともは不明である。

[B地区の調査] (図版第5b)

B地区では、弥生中期の方形周溝墓が3基、中世の小溝・溝・柱列などを検出した。

方形周溝墓は各周溝とも北側で角を検出するが南側では確認できないことから隣接する周溝墓同士で周溝を共有するものとみられる。埋土はいずれも固く締まった黒褐色シルトである。時期は周溝墓3の広口壺から中期前半と考えられる。

小溝群は東西および南北方向で検出する。南北小溝群はいずれも幅約0.2m、東西小溝群はいずれも幅約0.4mである。遺構の切合から東西小溝群が後出する。小溝は0.7~1.4m間隔でほぼ平行していることから畝の畝溝と推定される。

溝2は調査区東辺で検出した南北溝で、北及び南側で東に屈曲し、北側はA地区の溝1に連続すると思われる。深さ約1.1mで、小溝群に後出し、瓦器などから12世紀中頃とみられる。

柱列は直径0.4mの円形で、2.1m間隔で4間検出した。小溝群に後出する。

[まとめ]

B地区で検出した方形周溝墓は西側に隣接する調査区でも確認されており、A地区では確認できないことから、ほぼ東端部であると考えられる。

また、奈良時代の柱穴の検出は1個のみだが、A地区の北側に建物が展開しているとみられる。

中世でも東隣接地と同様、畝地から居住地への移行が伺えた。

V 史跡今城塚古墳第9・10次規模確認調査

宮崎 康雄

今城塚古墳は6世紀前半に築かれた淀川流域最大の前方後円墳である。整備のための規模確認調査を平成9年度から進め、平成17年度(第9次)に前方部両隅部、前方部側内濠・内堤、平成18年度(第10次)には後円部北側の状況を把握するための調査を実施した。

調査の概要

前方部

南北両隅部は比較的変形が少ない。南西隅では一段目テラスから円筒埴輪列や二段目斜面の葺石基底部が確認できた。円筒埴輪列は、大部分が底部～下半部のみを検出で、前方部正面についてはほぼ一直線に並んでいることを確認した。南西隅部では三角形を隅切りしたような状態で、南西角部には朝顔形埴輪を配置するほか、付近で須恵器の甕片が散在していた。

二段目斜面裾では、葺石が部分的に遺存していた。基底石は一辺20～50cmの川原石を斜面裾部に沿って直線的に据え、上部にはやや小ぶりの石を積み上げ、基底石の一部は後円部と同様に盛土内に据えていた。石材は北方約2kmの芥川から運ばれた川原石と推定されている。

このほか、二段目の墳丘盛土からメノウ製の勾玉が単独で出土したが、祭祀や埋納跡は確認できなかった。

内堤

前方部北側内堤の北西隅部では、内外の側縁に沿ってそれぞれ円筒埴輪列を検出し、内側外側ともコーナー部を確認した。埴輪は底部付近しか遺存していなかったが、外濠側に底部径40cm以上の大型品、内濠側では底部径30～35cmの中・小型品を約5cm間隔で据え、円筒の中心ではなく、外側の面を一直線にそろえるように配置していた。内側列では、北埴輪列の西端に朝顔形埴輪を据え、据付時の施工単位を反映しているように5～8本ごとにわずかに向きをかえ、

蛇行しながら東へ続く。掘形埋土の観察から、北埴輪列を据え付けた後に西埴輪列を据えたことが判明した。内外の埴輪列の間隔は約15m、埴輪列から斜面までの距離は外側が約1.5mであるのに対して内側が1.5～4.5mと隅部にむかって幅広くなっていた。

石敷遺構

北東側内堤の盛土直下で、小礫を用いた石敷を検出した。近世の水路によって中央部が大きく損なわれていたが、東西約9m、南北約5mの隅の丸い凸形に復元される。石材は淡路島産の泉南酸性凝灰岩と長石を主体とする大小2種類の円礫で、拳大の前者と径2～4cmの後者を使い分け、中央に向かって分厚く敷き並べていた。古墳時代の旧地表と内堤盛土直下の間に広がることから、古墳築造の直前に敷設されたと考えられ、地鎮など古墳造営にかかわる祭祀跡等の可能性が指摘できよう。

内濠・外濠

内濠北西側に残る「ゆり池」北西隅部を調査した。現状は沼状の湿地で、深さは3m以上ある。堆積土の状況から、古墳築造時の水面高は護岸列石の及ぶ範囲(標高23～23.5m)と推定できる。

北西コーナーの法面は緩やかなカーブを描き、明確な屈曲点はみられないが、法面の谷折れラインに沿って一辺30cm前後の平石を3個直列にして階段状に据えていた。これらは施工時の基準点となる配石とみられ、構築手法や作業単位を探る手がかりとなろう。護岸列石の多くは滑落していたが、斜面に沿って石を横長に据え、数mおきに縦方向に積み上げている。長辺20～60cm、短辺10～30cmほどの川原石を用い、これまで確認した内堤側の護岸列石よりも大ぶりである。

北側内堤裾で検出した外濠は、底幅約13m、深さは現地表から約0.4mを測る。底は平坦ながらも、泥土の堆積はみられず、空濠とするこれまでの調査成果と

一致する。

後円部

後円部北半部、崩落崖裾の北側で、花崗岩類や川原石を用いた「コ」字状の石組を検出した。滑落部の後(崖)側が大きく沈みこむという、地震による典型的な地滑り(円弧滑り)の状況を示し、現存する東西の長さは17.7m、南北は東辺で検出長11.2mであり、西辺は北端の隅石とその南側の一部の石材がかろうじて遺存していた。石組外縁部は、方形や長方形の石材の直辺部(最大長1.15m)をそろえて一直線に並べ、西北の隅部は一辺約0.5mの座布団状の石材を用いていたが、東北隅部は石組が崩れ込んでいた。北辺は中央部が高く、東西の隅にむかって低くなり、西隅では北西側へさらに落ちこんでいた。東辺も中央から折れたように南北が低く、一部は崩壊していた。外縁の石材は東西辺、南北辺とも布目状に3~4段に積み、高さ(厚さ)は最大で約0.8mである。この内側には一辺0.2~0.4mほどの川原石や板石をびっしりと詰めていた。

石材は、花崗岩類とホルンフェルスの川原石が大部分を占めていることから、北方約2kmの摂津峡(芥川中流域)やその周辺から運ばれてきたと推定される。他にも緑色片岩や結晶片岩などがわずかに出土した。石組外側の土層を観察すると、石積みの進行にあわせてその都度盛土を寄せている状況がみてとれ、石組が露出せず、盛土内に構築されていたことが判明した。

遺物としては、凝灰岩(二上山白石・阿蘇ピンク石・竜山石)や金銅製品(刀装具・馬具)、鉄製品(剣・鏃・甲冑など)の小片、管玉、ガラス小玉などの副葬品類がある。

凝灰岩は小片となって崩落土中に散在していたが、二上山白石とピンク石には明確な加工痕や朱の塗布が認められた。二上山白石は両面に加工痕のある厚さ約15cmの板状の破片が出土し、石材の厚さから判断して組合式石棺である可能性が高

まった。

金銅製品・鉄製品・ガラス小玉などは、崖際の石組上に堆積した流土中から最も多く出土している。今城塚古墳で検出した石室の基盤や家形石棺などの遺物の存在は、主体部が横穴式石室であったことを示唆している。

石室基盤工については、検出状況や崩落崖との位置関係から判断して、後円部上面から地すべりによって崩落したと判断できる。後円部上面での第8次調査で検出した礫群は、検出状況や石材の形状・種類などからすれば、本来は一体であった石組が南北に分かれて崩落したと考えられる。

石組を盛土内に埋めこみ強固な基盤を構築して、上方に据えた横穴式石室を直接支えながら、その重量を盛土全体に分散させる意図がうかがえる。基盤工の検出状況から判断すれば、現存する墳頂部付近が石室基盤工の底面にほぼ相当する高さで推定されることから、本来の墳丘は三段築成であって、最上段に横穴式石室が築かれていたと考えるのが至当である。横穴式石室という新たな埋葬施設を伝統的な埋葬位置に設けようとするとき、大規模な古墳の場合は地上からかなり上方に位置することになり、石室を厚い盛土の上に築く必要が生じる。重量物を人工盛土上で安定した状態を保ち、雨水の浸入による盛土の軟化と、石室重量による盛土の不等沈下を防ぐための工夫が石室基盤工であったと解される。

過去10年間にわたる調査において、今城塚古墳の状況が次第に明らかになってきた。盾形二重周濠や左右の造出などの伝統的な形態を保ちつつも、横穴式石室の採用や埴輪祭祀場の付設など新旧の要素が混在する。また、伏見地震による墳丘の崩壊を受けてはいたが、当時の古墳築造技術についても多くの知見を得ることができた。これらの調査成果を活かした今城塚古墳の整備工事は、平成23年春の完成を目指して進められている。

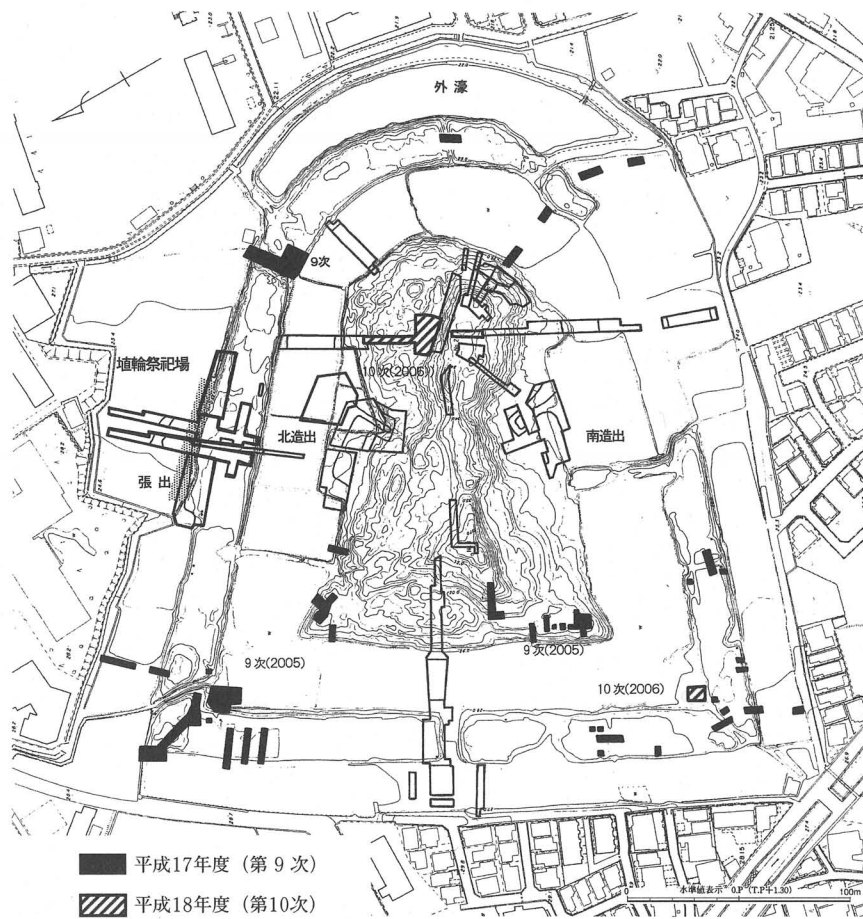


図1 調査位置図



図2 第10次調査（後円部）平面図・土層図

VI 史跡闘鶏山古墳第4・5次確認調査

高橋 公一

闘鶏山古墳は、平成14年の調査によって未盗掘の竪穴式石槨2基をそなえた古墳時代前期前半(4世紀前半)の前方後円墳であることが明らかとなり、同年に国史跡の指定を受け、恒久的な保存が図られている。

高槻市では闘鶏山古墳の保存整備に向けて、継続的に確認調査を実施している。

[第4次-平成17年度]

前方部と古墳の南側の土壇状遺構に合計7ヵ所の調査区を設定して実施した(総面積は約400m²)。

前方部 第1段(下段)及び第2段(上段)斜

面と第1段目テラスを検出した(図1 4-1~3以下同様)。第1段斜面は、東隅角部は流失していたが、傾斜変換点と前回までに確認している葦石裾部ラインにより、東隅角部の復元が可能となった。第1段目テラスの幅は、前端部で1m、東側と西側は1.5mに復元でき、上面に直径10cm以下の礫を検出した。第2段斜面は、前端面と西側では遺存状況が悪く、一部で葦石を検出するに留まる。一方、東側では約5mの範囲で良好に検出できた。いずれも最下段には一回り大きな石(直径25~30cm)を使用して基底石としていた。

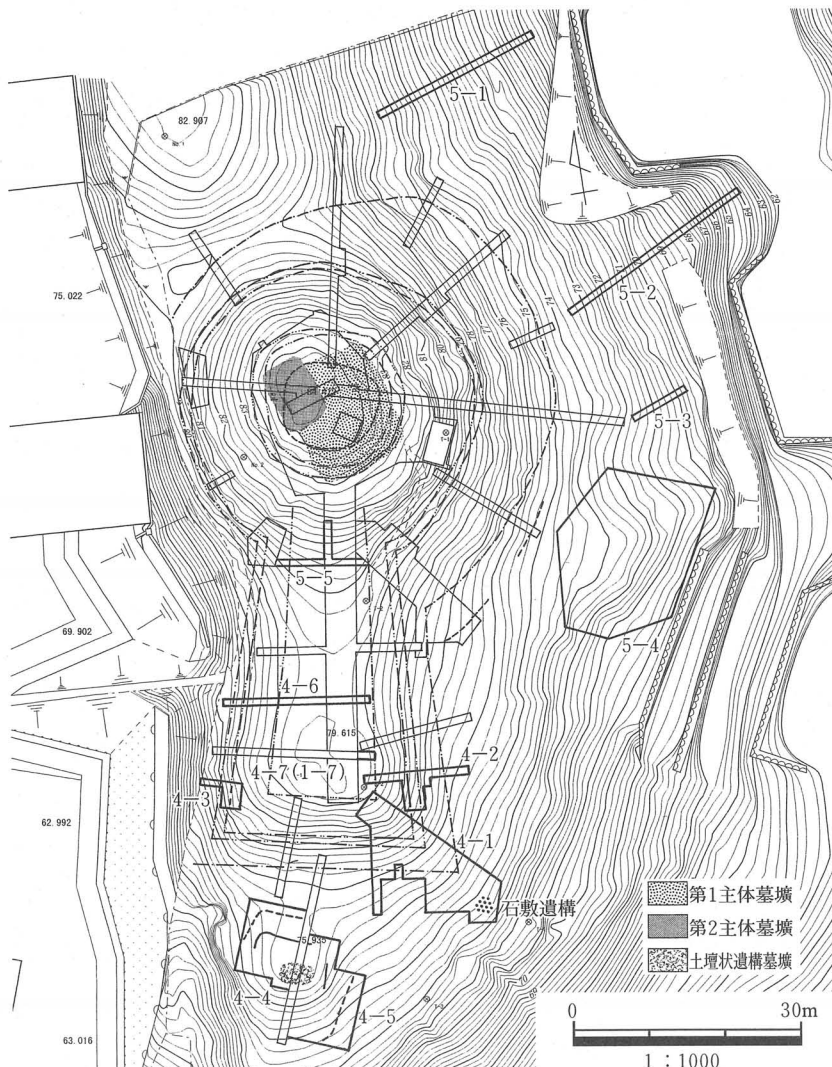


図1 史跡闘鶏山古墳確認調査位置図(数字は調査区番号)

前方部の盛土状況 前方部中央付近では、西半盛土は、小規模な土層で構成される東半盛土の西側斜面を約40~30度の斜面として削りなおした後に施工されていた(4-6)。また、前方部南半部では、東半盛土の西側斜面を約50度の斜面で削りなおしたのち、西半の盛土をおこなうが、西端付近では、東側に傾斜する斜面をもつ西端盛土が存在しており、西半盛土は西端盛土と東半盛土の谷部を埋めるように積まれたものと判明した(4-7)。中央付近と南半部で共通して検出した東半盛土の削りなおし斜面は、下部に位置する盛土の表層を削って新鮮にすることにより、上部の盛土との接着を強くすることが目的と考えられる。

土壇状遺構 土壇の北西部と南東部、及び1次調査で確認して

いた墓壙状の土坑の規模と形状が明らかとなった〈4-4・5〉。土壇上面には直径10cm以下の礫を用いた石敷を検出した。特に北面及び東面では直径15cm程度の石がほぼ直線的に並んでおり、さらに東面では全体的に石も大きく、組み上げた部分もある。土壇は盛土によって形成され、南北17m、東西16mの方形と想定される。土壙は頂上平坦面のほぼ中央に位置し、上面は東西4.6m、南北2.8mの隅丸方形で、掘形はすり鉢状に下り、さらに下段を垂直に深く掘り込む。下段の平面形は東西3.5m、南北1.0mの長方形を呈し、全体の深さは0.8mで、低部西側がやや低い。遺物は出土していない。木棺などの痕跡はみられないものの、下段掘形の平面形は長方形であることから、棺の埋納を想定することも可能とみられる。接した位置にあり、全面を石で覆うなどの共通点から、鬮鶏山古墳との密接なつながりがうかがわれる（口絵2上段）。

[第5次-平成18年度]

墳丘の盛土状況の把握と後円部東側丘陵部斜面における遺構の確認を目的に、合計5ヵ所の調査区を設定して実施した（総面積は約400㎡）。

墳丘の盛土状況 前方部の北端付近に古墳中軸に直交する調査区を設定、さらに中軸ラインに沿って後円部側に拡張して土層観察をおこなった〈5-5〉。前方部の盛土は、前年度までの前方部南端付近や中央付近と同様に、東半部が先行し、その西側斜面を切りなおしたうえで西半部の盛土をおこなっていた。中軸ラインでは、前方部東半盛土の下部に、約30°の傾斜で墳頂部へ向かう後円部盛土を明確に検出できた。そこで後円部盛土の一部を断ち割って土層の観察をおこなったところ、前方部盛土はおもに橙褐色砂質土によって構成されているのに対し、後円部盛土はおおむね黄灰色シルトを基本としており、土質的にも違いがみられた。こうした状況から、後円部は前方部に先行して築造し、施工にあたっては土を精選して使用したことが想定される（口絵2下段）。

ところで、盛土下部の地山面で古墳中軸ラインに沿った位置に、直径約0.1m、深さ0.1m以上の小穴を南北2ヶ所検出した。間隔は2.7mで北側の小穴は後円部盛土の裾部の位置とほぼ一致する。埋土は上層の各盛土と同質の土で、遺物は無い。この小穴は位置関係と形状から、古墳築造時の割り付け基準杭の痕跡とも推測されるが、今後の詳細な検討を要する。

後円部東側丘陵部斜面部 後円部東側丘陵部斜面に調査区を3ヵ所設定したが、転落してきた葺石が散見されるものの、古墳に伴うとみられる遺構は存在せず、東に下降していく地山面を確認したのみである〈5-1~3〉。

また、東側くびれ部の東方斜面に位置する舌状の高まりの実態を把握するため、ほぼ全面にわたり調査をおこなった〈5-4〉。その結果、盛土は存在せず全体が黄灰色砂質土の地山となっており、規模は裾部で南北14m、東西10m、中央部は南北約6m、東西約5mの範囲で、標高73.8~74.1mの平坦面となることが判明した。平坦部や斜面部で直径10cm以下の礫群が部分的にみられほか、律令期の土師器及び須恵器の小片が出土したが、この高まりが鬮鶏山古墳に関連する遺構であるとの確証を得ることはできなかった。一方、この高まりの上面で地割れの痕跡を検出した。痕跡は南北および東西方向にはしり、幅は5~10cm、長さは14mに達するものもみられ、深さは1m以上のものがある。亀裂の内部には赤褐色粘土が詰まっていた。これらは、大阪層群形成時の地殻変動に伴うものと推定されている。

[石槨内画像調査]

平成18年度では、石槨内部の状況を確認するため、天井部空隙からデジタルカメラを挿入して撮影をおこない、鮮明な画像を得ることができた。詳細は、平成15年度から実施している保存環境調査の成果とともに、『鬮鶏山古墳石槨画像・環境調査報告書』として刊行している。

版 圖



a. 塚原古墳群 A57号墳[左奥]・A58号墳[右奥]・A59号墳[手前] (北側から)



b. 塚原古墳群 A57号墳(南側から)



a. 塚原古墳群 A58号墳(南側から)



b. 塚原古墳群 A59号墳(南東側から)



a. 嶋上郡衙跡 調査区北半部全景(東側から)



b. 嶋上郡衙跡 調査区南半部東側全景(西側から)



a. 郡家今城遺跡 B区建物1(東側から)



b. 郡家今城遺跡 D区建物2(西側から)



c. 郡家今城遺跡 A区井戸1(西側から)



a. 津之江南遺跡 2006-A[北]地区全景(北側から)



b. 津之江南遺跡 2006-B地区全景(南側から)

編集後記

文化財課では、市民のみなさんの文化財への高い関心を受け止め、毎年さまざまな普及啓発事業に取り組んでいます。

今回報告した史跡今城塚古墳での古代体感イベント「千人で引く大王の石棺」は、小学生や一般市民など2,500人が参加し、空前の規模で実施されました。人々が引く綱が、砂煙を上げながら巨大な石棺を動かしていく様子は、古代の情景を思い起こさせるとともに、あらためて人間のパワーを感じとることができました（口絵3上段、1-Ⅲ参照）。

文化財に親しみ、学ぶだけでなく、感動を伴う普及啓発事業を、今後も企画していきたいと思えます。ご期待ください。

本書は、平成17年度及び18年度の文化財関連事業をまとめたものです。掲載写真のうち、口絵1・2と図版写真は清水良真（文化財専門員）が撮影しました。また、挿図作成にあたり、池田理美さんの協力を得ました。本書の編集は高橋公一がおこない、早川圭と西村恵祥（文化財専門員）の援助を得ました。

高槻市文化財年報 平成17・18年度

平成20年3月26日

発行 高槻市教育委員会文化財課
〒560-0067 高槻市桃園町2-1

印刷 株式会社 邦文社
〒533-0011 大阪市東淀川区大桐一丁目4番9号